

令和3年度 情報モラル調査結果(確定版)

令和4年3月28日
岐阜県教育委員会

【 実施概要 】

<調査対象> 岐阜県内公立の小中高等学校及び特別支援学校高等部
 小学校 1年から6年 の児童
 中学校 1年・2年・3年 の生徒
 高等学校 1年・2年・3年 の生徒
 特別支援学校 高等部 1年・2年・3年 の生徒

<調査方法> 各学校で、校舎別・課程別・学年別に1クラス以上を抽出して、アンケート調査を実施

<実施期間> 令和3年11月～ 12月

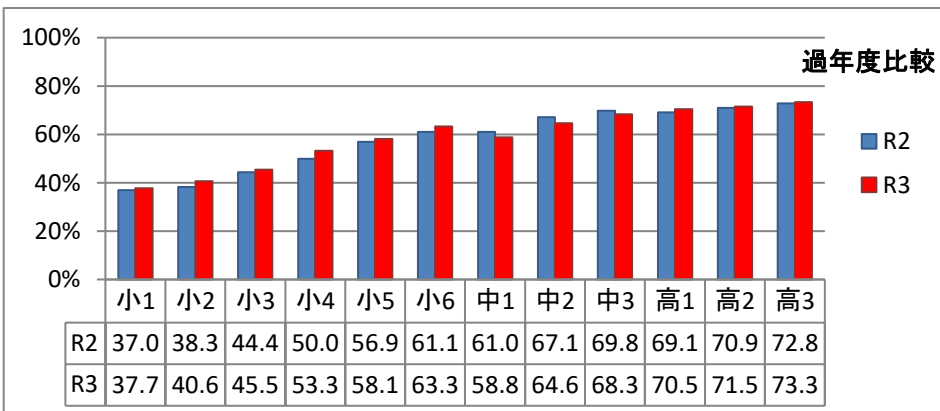
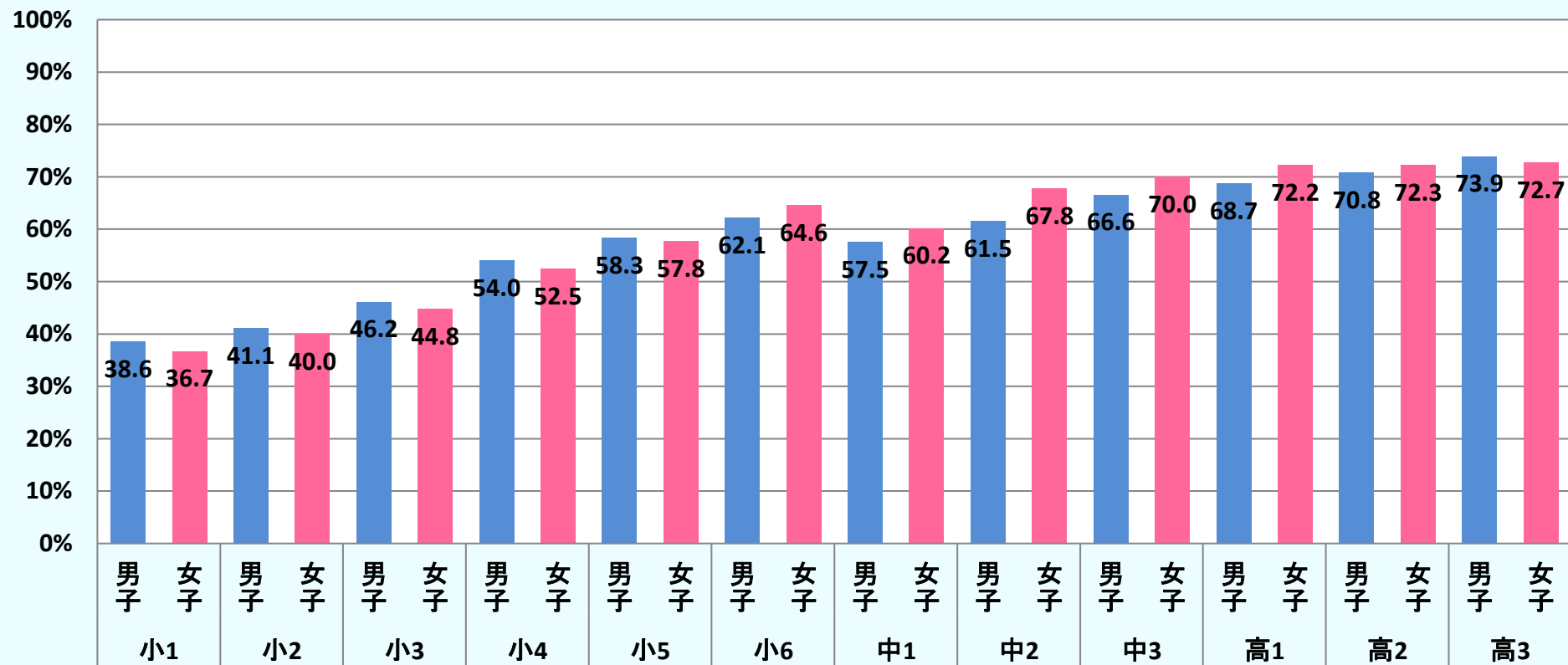
<調査数> ※ 「高」は特別支援学校高等部を含む
 (令和3年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	361	361	361	361	361	361	178	178	178	88	88	88	361	178	88	627
人数	7,967	8,212	8,445	8,604	9,246	9,118	5,230	5,436	5,548	3,054	3,180	3,619	51,592	16,214	9,853	77,659
男子	4,016	4,212	4,250	4,340	4,706	4,665	2,676	2,760	2,800	1,513	1,626	1,818	26,189	8,236	4,957	39,382
女子	3,951	4,000	4,195	4,264	4,540	4,453	2,554	2,676	2,748	1,541	1,554	1,801	25,403	7,978	4,896	38,277
男女比(%)	50 : 50	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	50 : 50	51 : 49	51 : 49	50 : 50	51 : 49

(令和2年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	366	366	366	366	366	366	178	178	178	88	88	88	366	178	88	632
人数	8,112	8,298	8,410	9,123	9,106	9,126	4,724	5,035	5,039	2,422	2,510	2,405	52,175	14,798	7,337	74,310
男子	4,173	4,177	4,240	4,648	4,622	4,646	2,391	2,535	2,549	1,326	1,317	1,360	26,506	7,475	4,003	37,984
女子	3,939	4,121	4,170	4,475	4,484	4,480	2,333	2,500	2,490	1,096	1,193	1,045	25,669	7,323	3,334	36,326
男女比(%)	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	50 : 50	51 : 49	55 : 45	52 : 48	57 : 43	51 : 49	51 : 49	55 : 45	51 : 49

Q1. 家に、インターネットに接続できて、あなたが使えるパソコンがありますか。



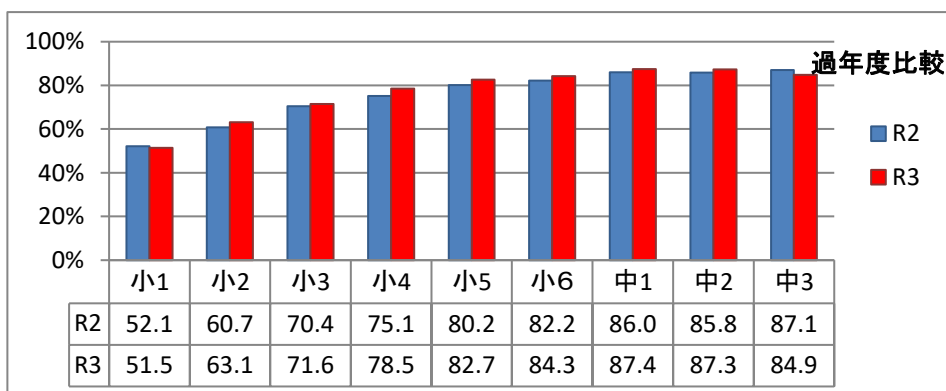
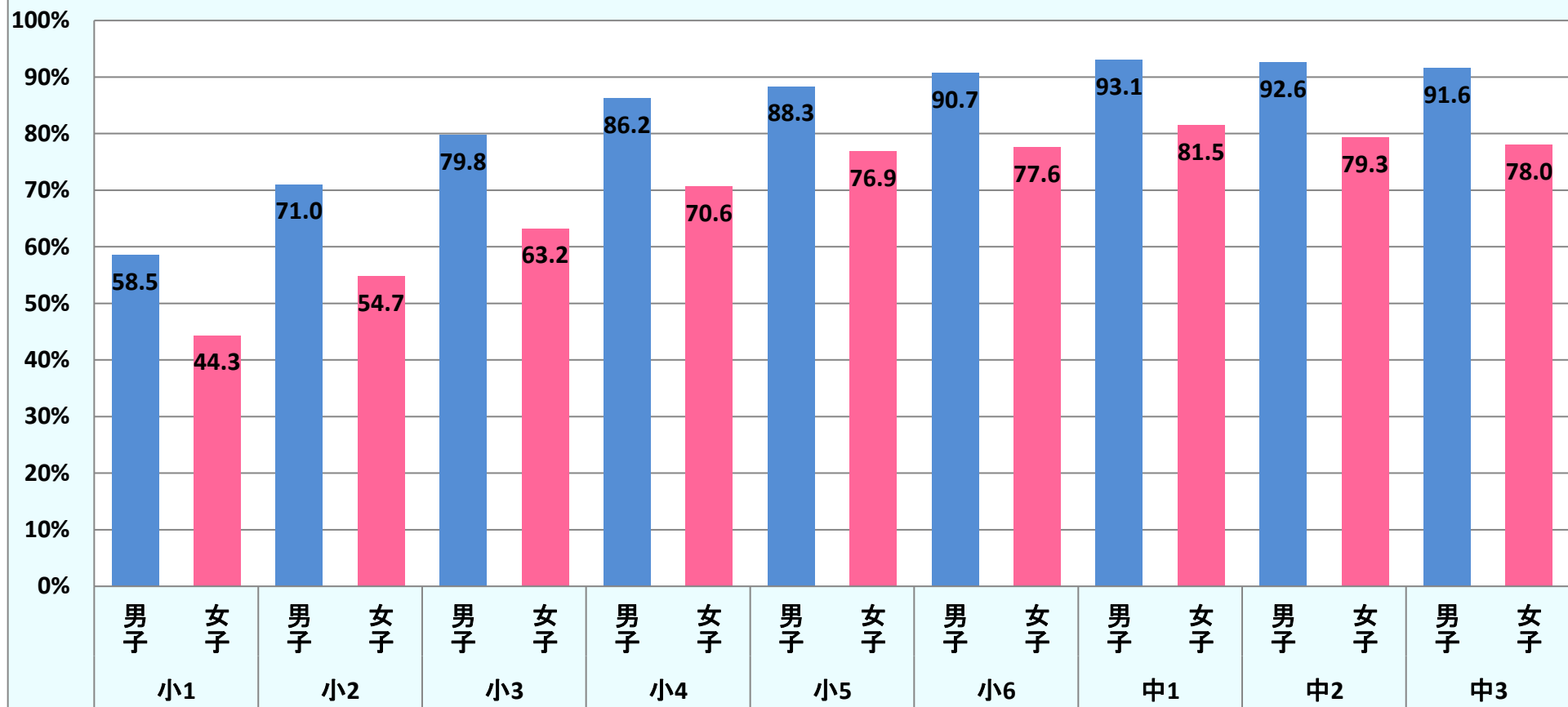
【傾向】

・昨年度と比較して、小学生のパソコンの使用が微増している。

【指導・啓発のポイント】

- ・自宅パソコンにセキュリティソフトがインストールされているか等の確認が必要。
- ・大人がクレジットカード等の番号を記憶させた状態で使用していると、児童生徒が使用する際にもそのまま使うことができるため注意が必要。

Q2.あなたは、通信型ゲーム機や携帯音楽プレーヤーをもちていますか。



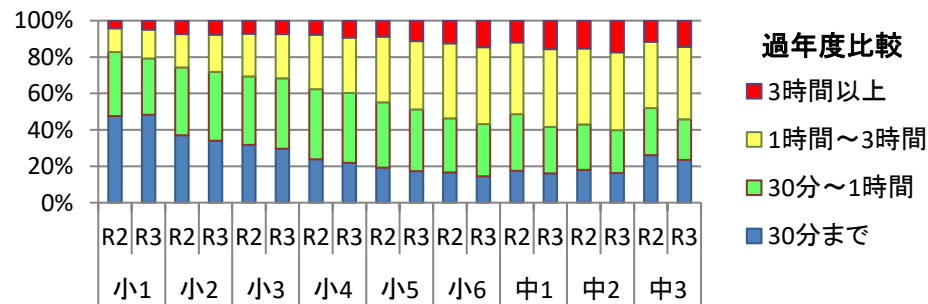
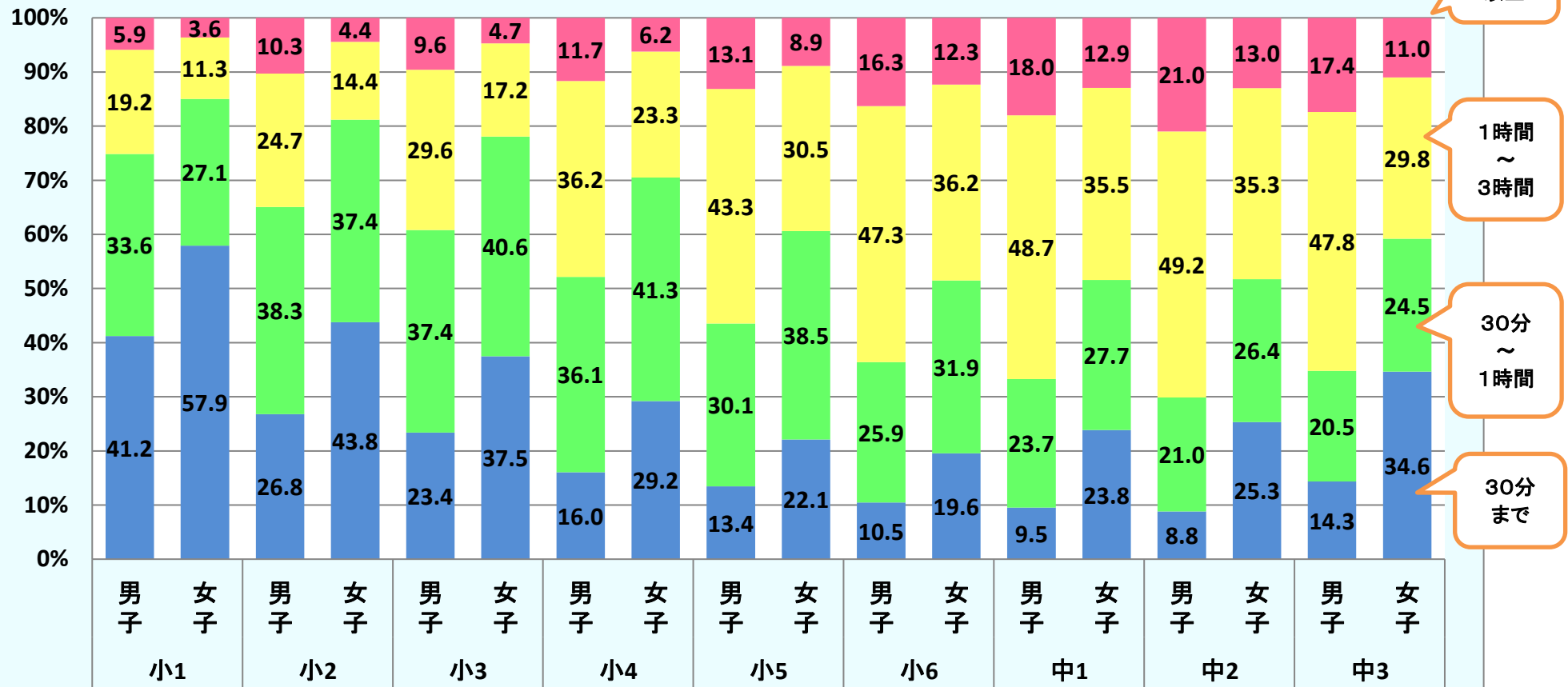
【傾向】

- ・どの学年においても男子の所持率が非常に高い。
- ・学年が上がっていくにつれて、男女とも所持率が高くなっている。

【指導・啓発のポイント】

・通信型ゲーム機からでも、インターネットに接続し、面識のない者同士でチームを組んでプレイすることができる。個別のやり取りから、トラブルに発展したケースが全国的に増加傾向にあることから、ルールやマナー、ゲーム機の設定等(ペアレンタルコントロール)について、児童生徒、保護者に対して、継続的に啓発する必要がある。

Q3.通信型ゲーム機を使う時間は平日で1日あたりどれくらいですか。(Q2で持っていると答えた人)



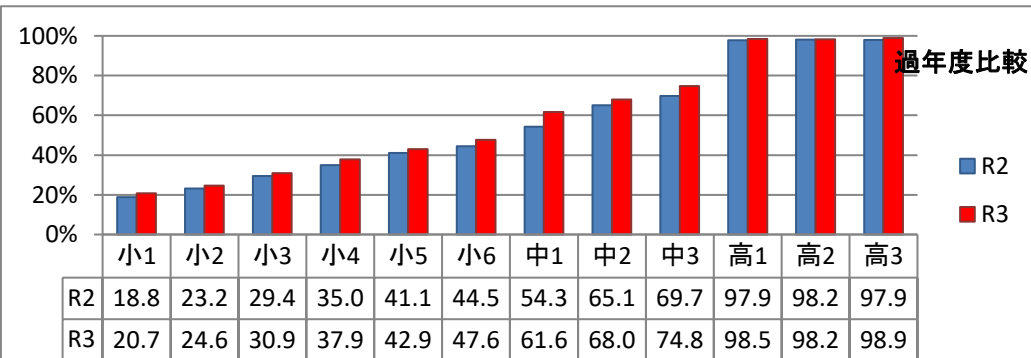
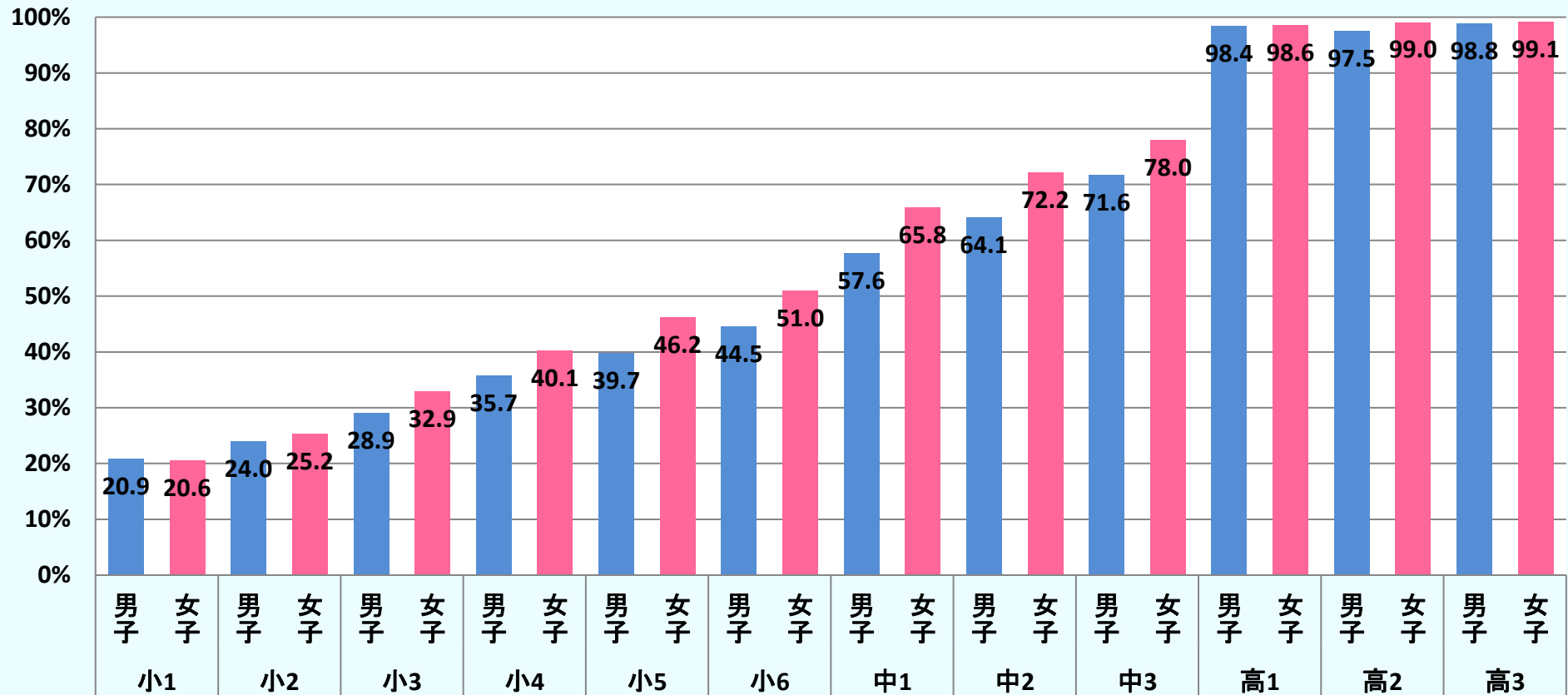
【傾向】

- ・前年度と比較して、3時間以上使用している児童生徒が増加している。
- ・学年が上がっていくにつれて、長時間使用している児童生徒が増加している。

【指導・啓発のポイント】

- ・学年が上がっていくにつれて、使用時間が長くなる傾向があるため、家庭内のルールを定期的に見直すよう、生徒、保護者に向けた啓発を継続する。

Q4. あなたは、自分の携帯電話を持っていますか。



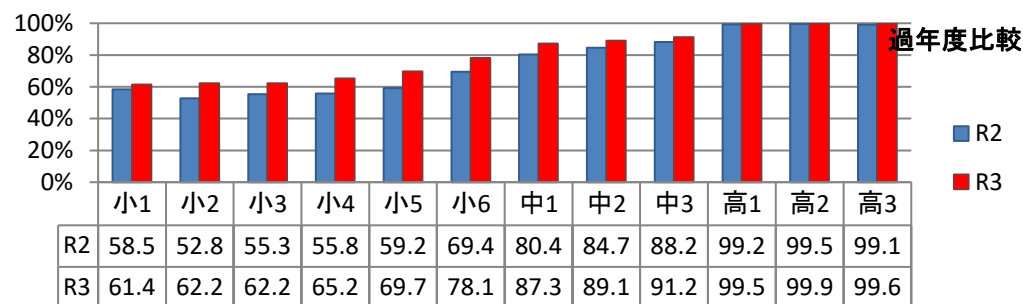
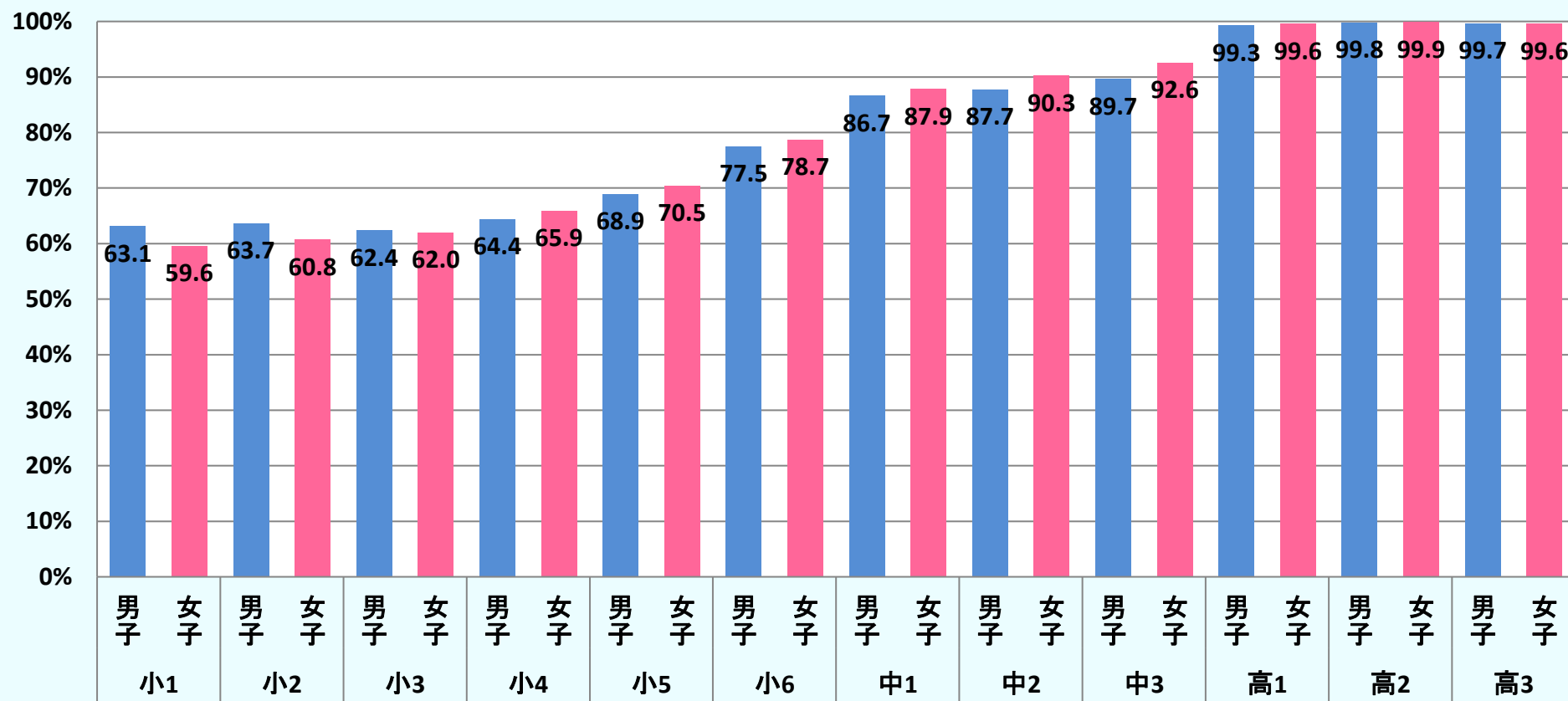
【傾向】

- ・毎年徐々にではあるが、小中学生の所持率が上がっている。
- ・どの学年においても女子の所持率が高い。

【指導・啓発のポイント】

- ・保護者が以前使用したスマートフォンを使っているケースがあり、フィルタリングが設定されていない可能性がある。トラブルに巻き込まれるケースがあるため、フィルタリングの設定について、児童生徒、保護者に紹介する。

Q5.スマートフォンですか。
(Q4で携帯電話をもっていると答えた人)



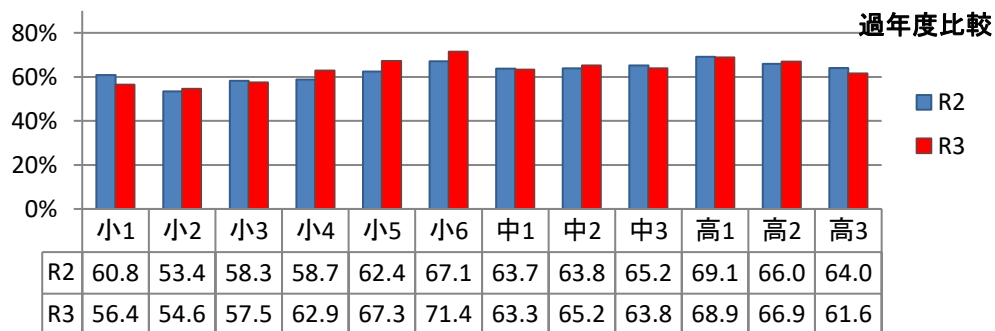
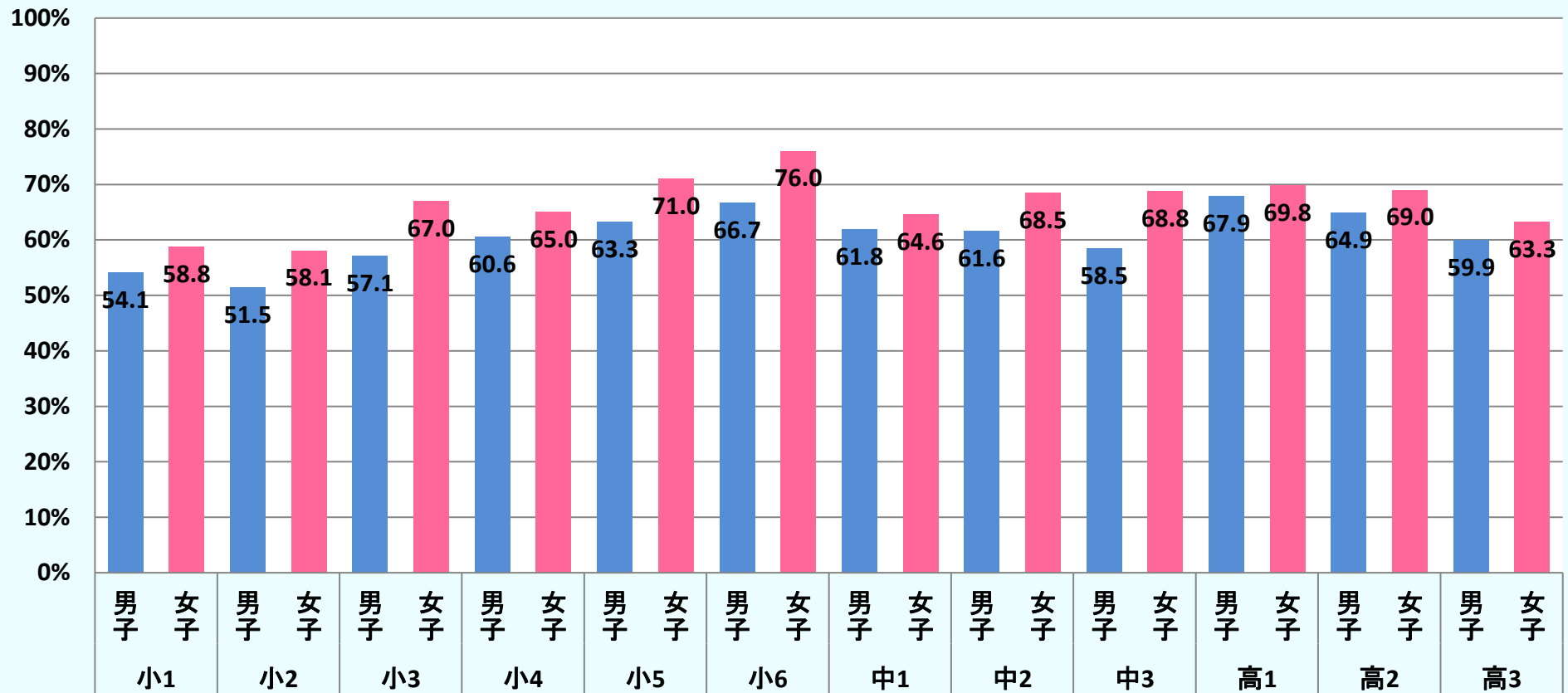
【傾向】

・前年度と比較してスマートフォンの所持率が増加している。特に、小学生での増加が顕著。

【指導・啓発のポイント】

・小学生において、どの学年もスマートフォンの割合が6割を超えている。有害サイトにアクセスし、トラブルにあわないために、フィルタリング設定の重要性を児童生徒、保護者に対して、継続的に啓発する。

Q6.フィルタリングしていますか。(Q4で携帯電話をもっていると答えた人)



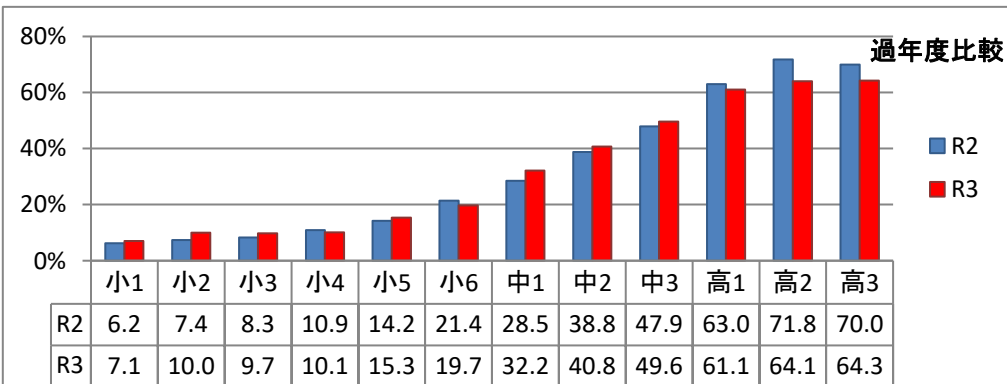
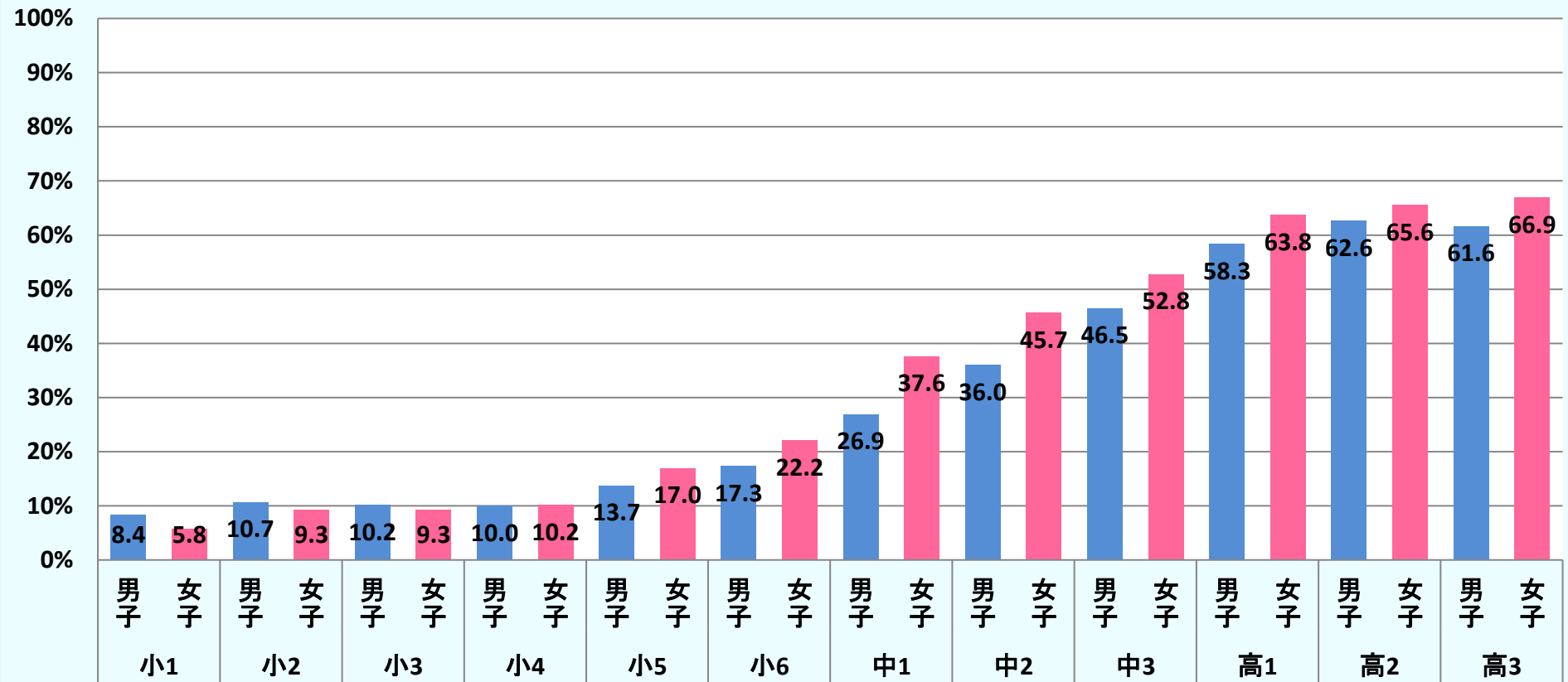
【傾向】

- ・全体的に設定率が6割から7割程度となっている。
- ・小学校低学年男子の設定率が低い。

【指導・啓発のポイント】

・「青少年インターネット環境整備法」では、子どもの利用状況を把握し、発達段階に応じてフィルタリングソフトを利用する等、インターネットの利用を適切に管理し、活用能力習得に努めることが保護者の責務とされていることを懇談等で確認する。

Q7.あなたは、インターネットや携帯電話でSNSに書き込みをしたことがありますか。



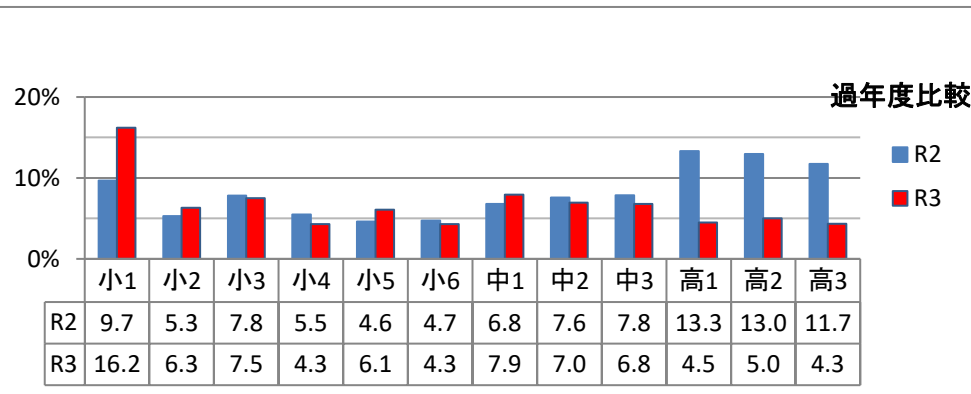
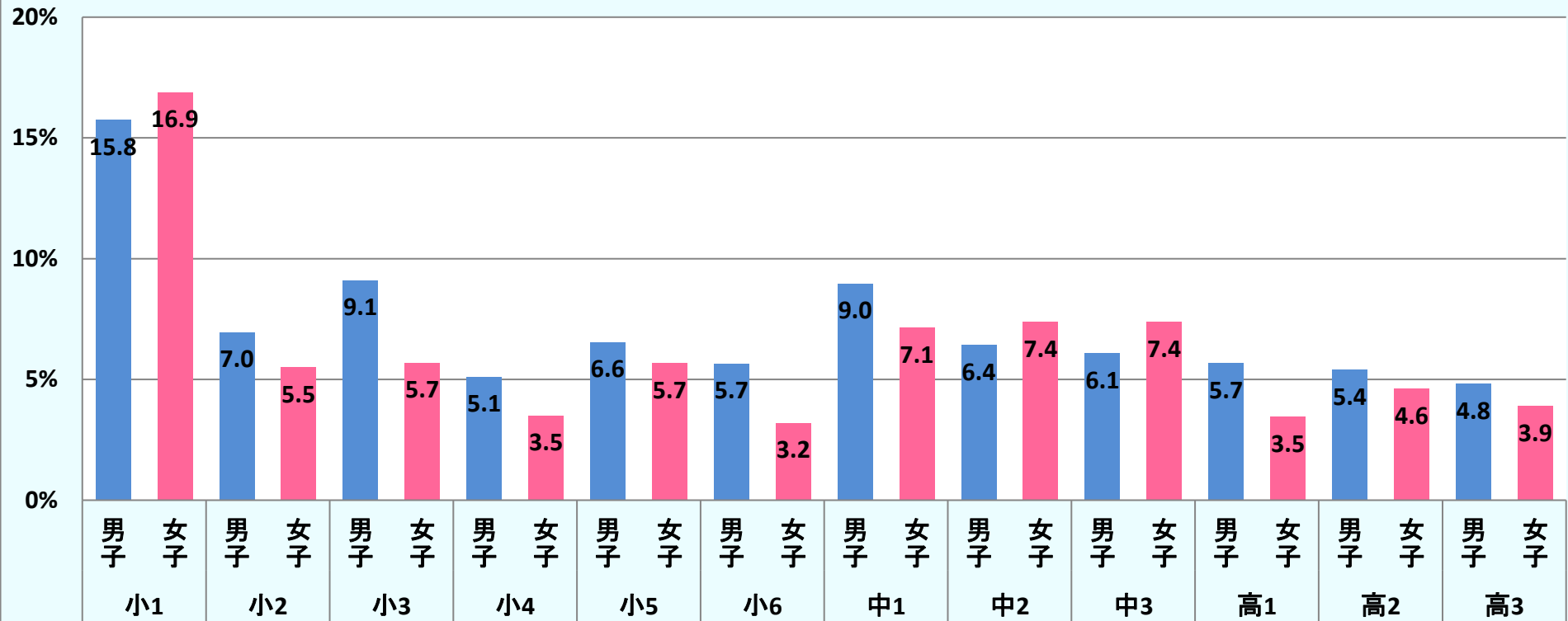
【傾向】

- ・学年が上がっていくにつれて、書き込み率が上昇。
- ・前年と比較して、高校生の書き込みが減少。

【指導・啓発のポイント】

・SNS等に他人を誹謗中傷する書き込みをすることは、侮辱罪や名誉棄損罪、岐阜県迷惑行為防止条例にある名誉を害する事項の告知等の違反になる場合がある等の啓発が、児童生徒の書き込み減少に一定の効果があったと考えられる。

Q8.あなたは、他人の悪口や個人情報を公開するような書き込みをしたことがありますか。(Q7で「書き込みをしたことがある」と答えた人)



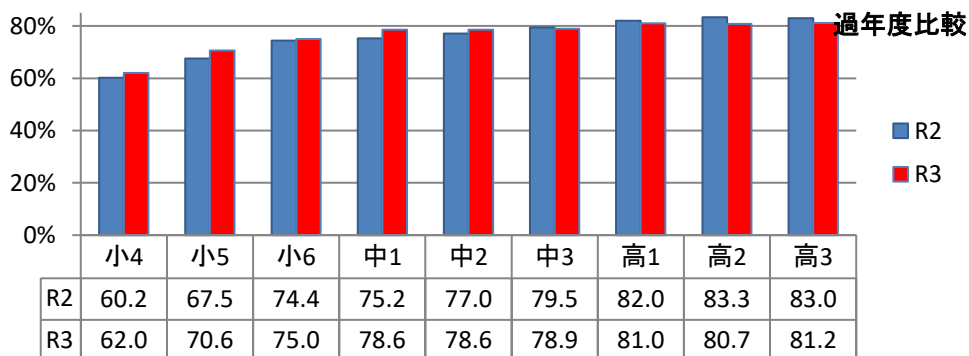
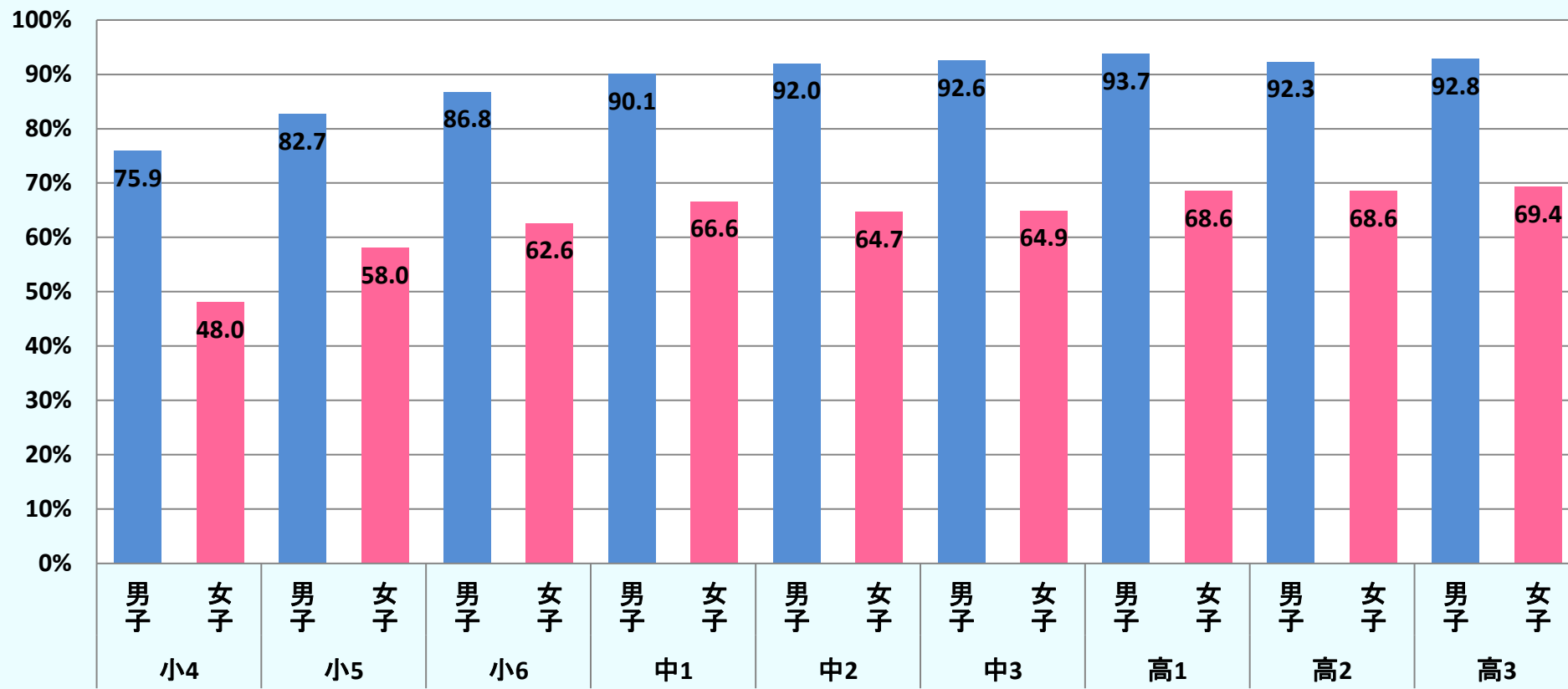
【傾向】

・前年と比較して、他人の悪口等の書き込みは減少傾向だが、小学校1年生では大きく増加。

【指導・啓発のポイント】

・小学校低学年では、スマートフォン等の所持率増加、フィルタリングの設定率の低さから、大きなトラブルにつながる可能性がある。個人情報や他人を誹謗中傷する書き込みについて、書き込む側、書き込みをされた側の気持ちを想像させ、他人の人権を尊重した適切なSNS等の使い方について考えさせる。

Q9.あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。



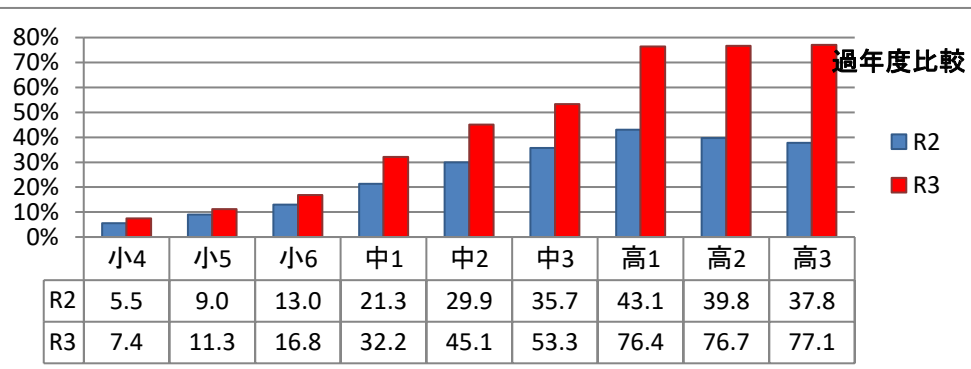
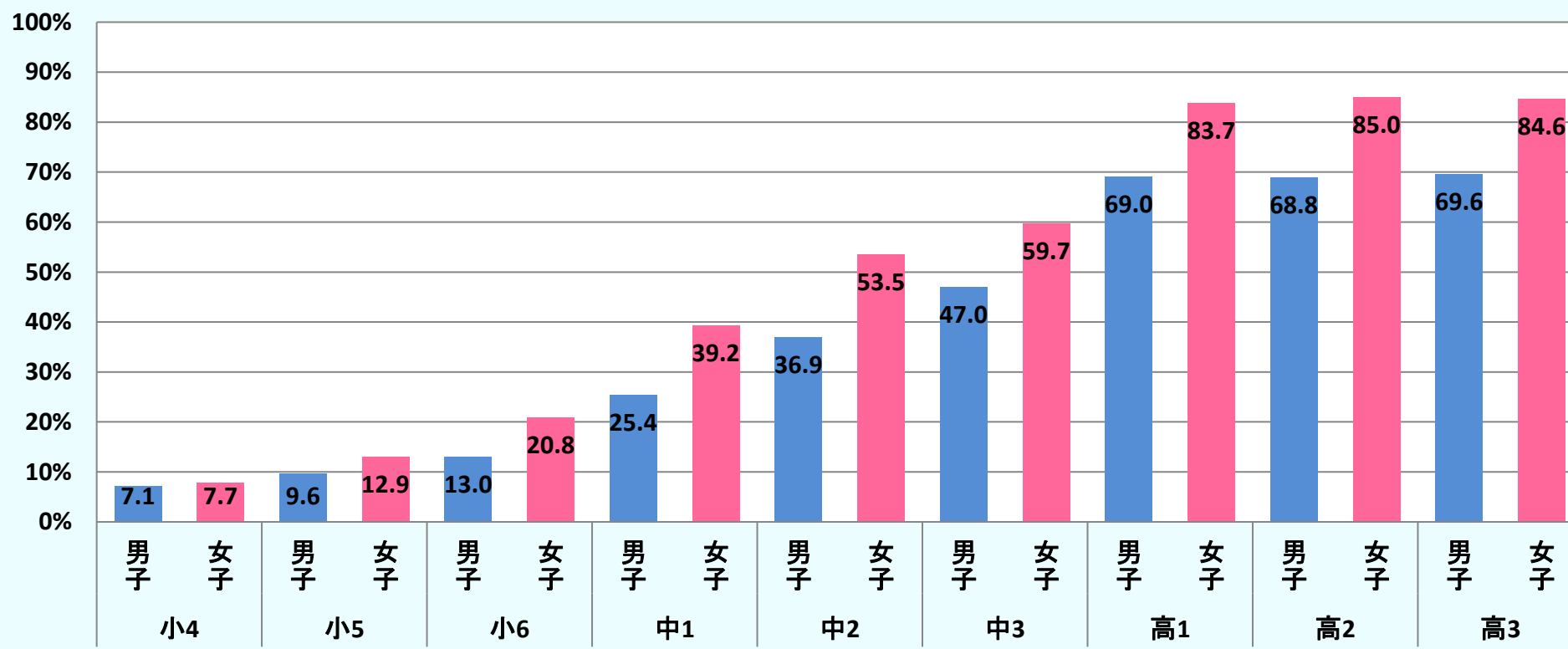
【傾向】

- ・全体的に増加傾向にあり、女子と比較して、男子の利用割合が高い。
- ・小・中学生では増加がみられる。

【指導・啓発のポイント】

- ・ボイスチャットでの交流ができるオンラインゲームが多くなってきており、ゲーム上の交流の中で大きなトラブルに発展したケースもある。このような事例を紹介しつつ、継続的な注意喚起を児童生徒、保護者に向けて行う必要がある。
- ・ゲームソフトやアプリには対象年齢が記載されており、年齢区分(レーティング)に応じたゲームを利用するよう、児童生徒、保護者に啓発する。

**Q10.あなたは、携帯電話やパソコンから見る事ができる自分のホームページ
(ブログ・インスタ等を含む)をもっていますか。**



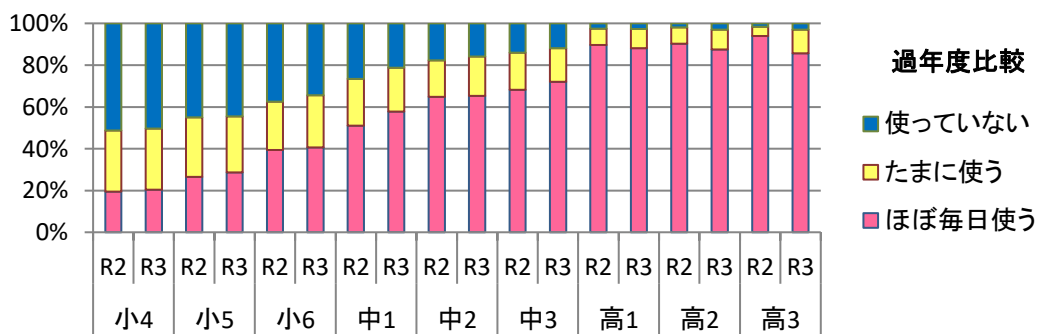
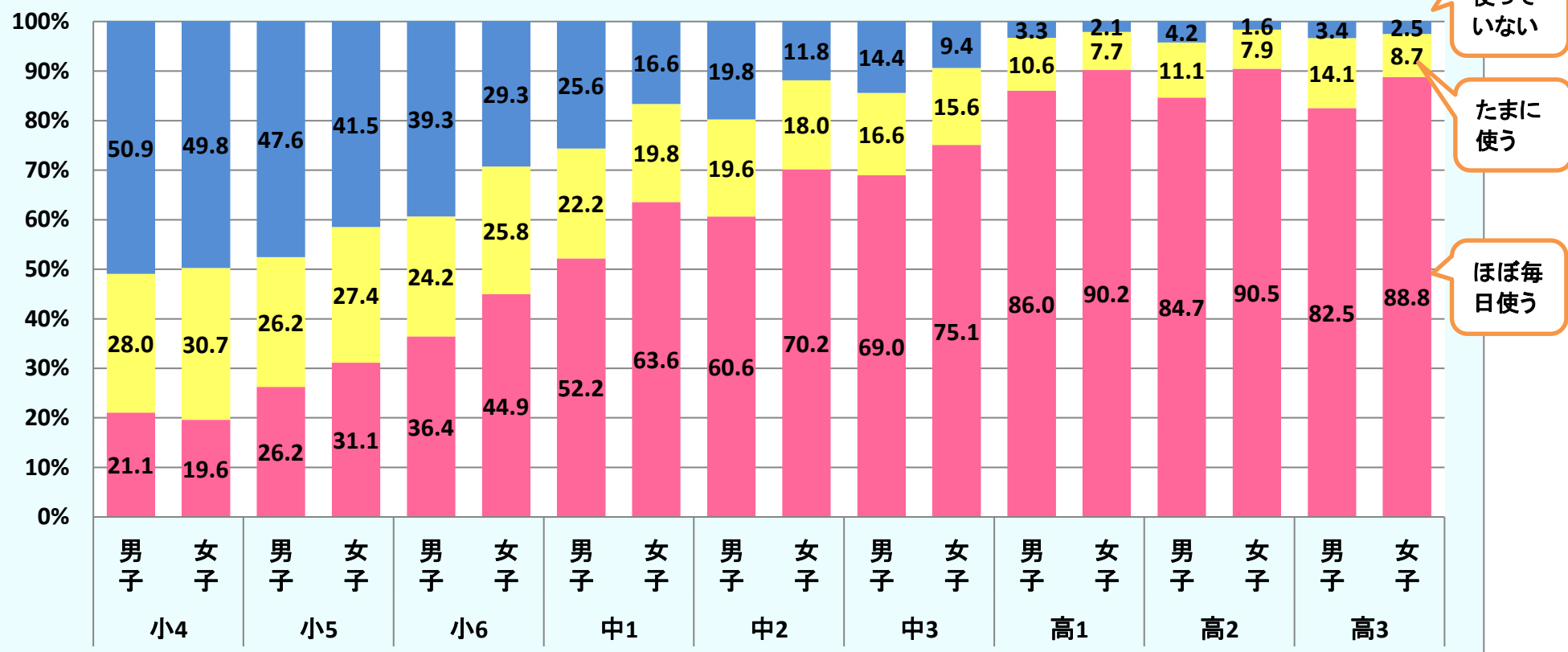
【傾向】

- ・どの学年も女子の利用が多い。
- ・中学生の利用増加が顕著。

【指導・啓発のポイント】

・個人情報等を安易にアップロードすることで、大きなトラブルに巻き込まれるケースが増加している。情報を発信する際には、自分だけではなく、友人や家族の個人情報を守ることも意識させる。

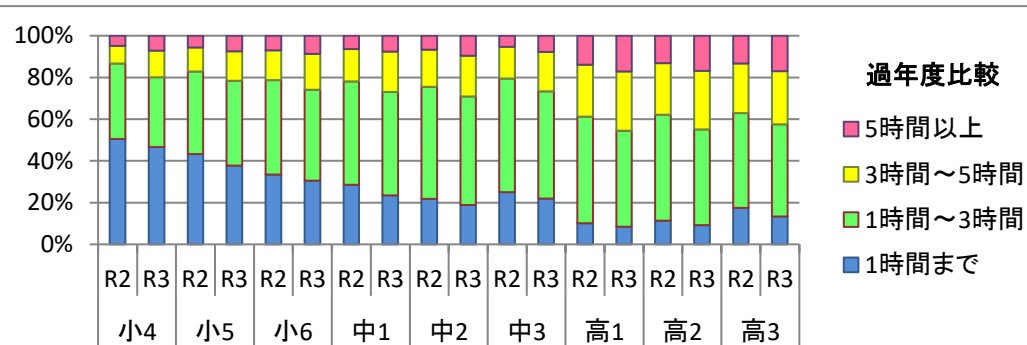
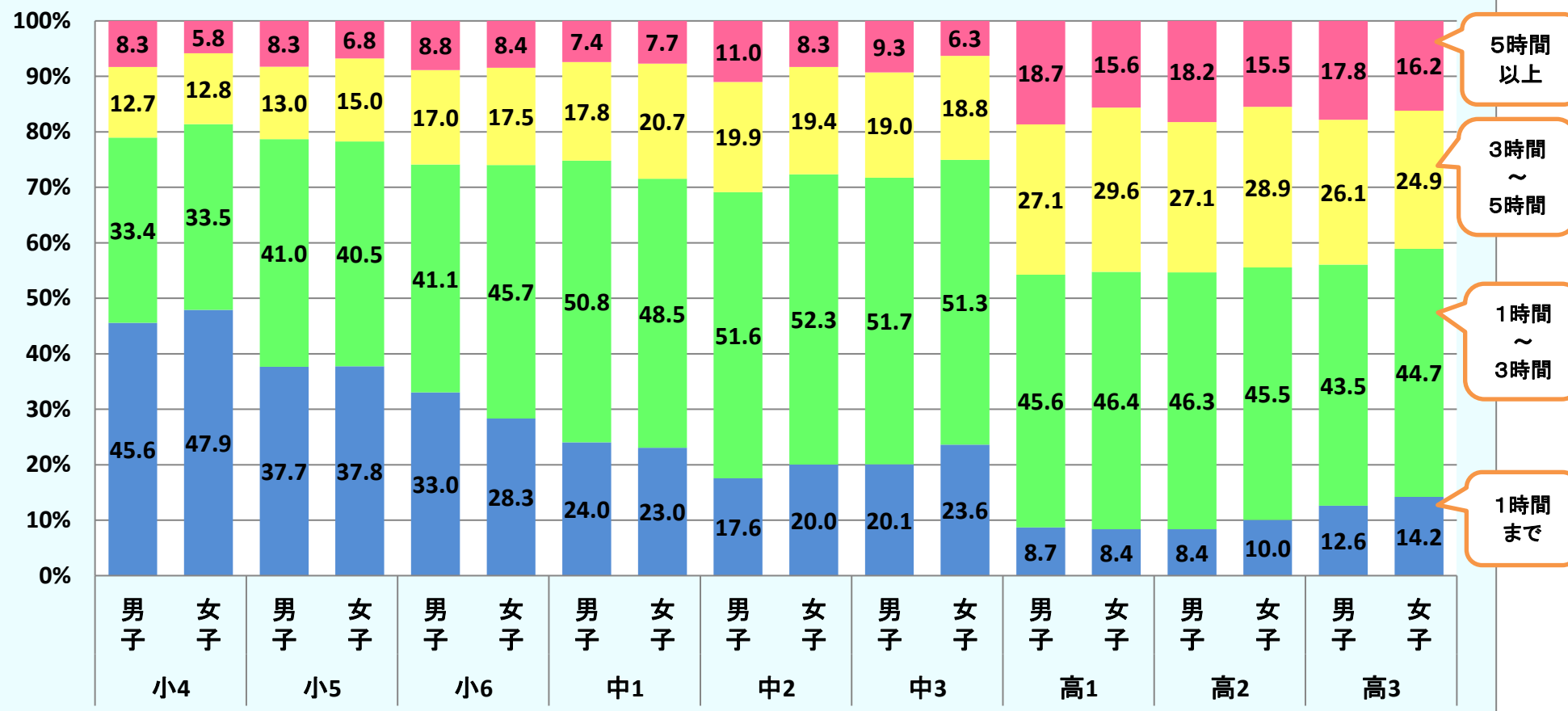
Q11.ホームページを見たり、メールやチャットをしたり、SNSを使ったり、
オンラインゲームをしたりするために、携帯電話をどれくらい使いますか。



【傾向】
 ・小学生、中学生において、「ほぼ毎日使う」と答えている割合が増加しているが、高校生については、前年と比較して減少した。

【指導・啓発のポイント】
 ・インターネットの長時間利用を防ぐために、1日のうちインターネットに使える時間がどのくらいあるかを児童生徒、保護者が把握し、家庭内ルールを作ることが有効である。

Q12.使う時間は1日あたりどれくらいですか。(Q11で「ほぼ毎日使う」と答えた人)



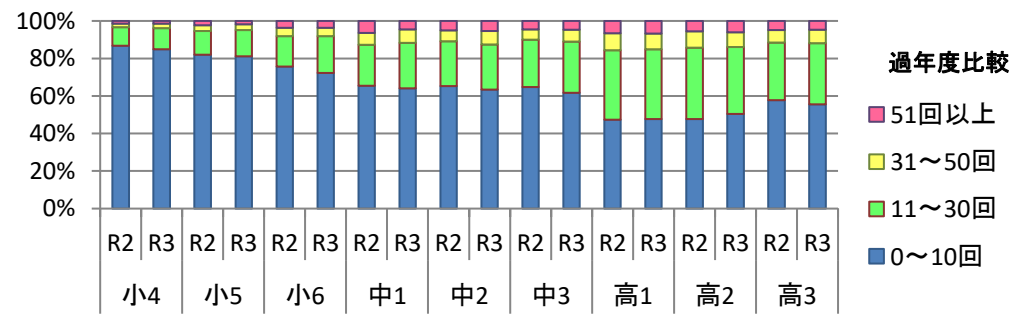
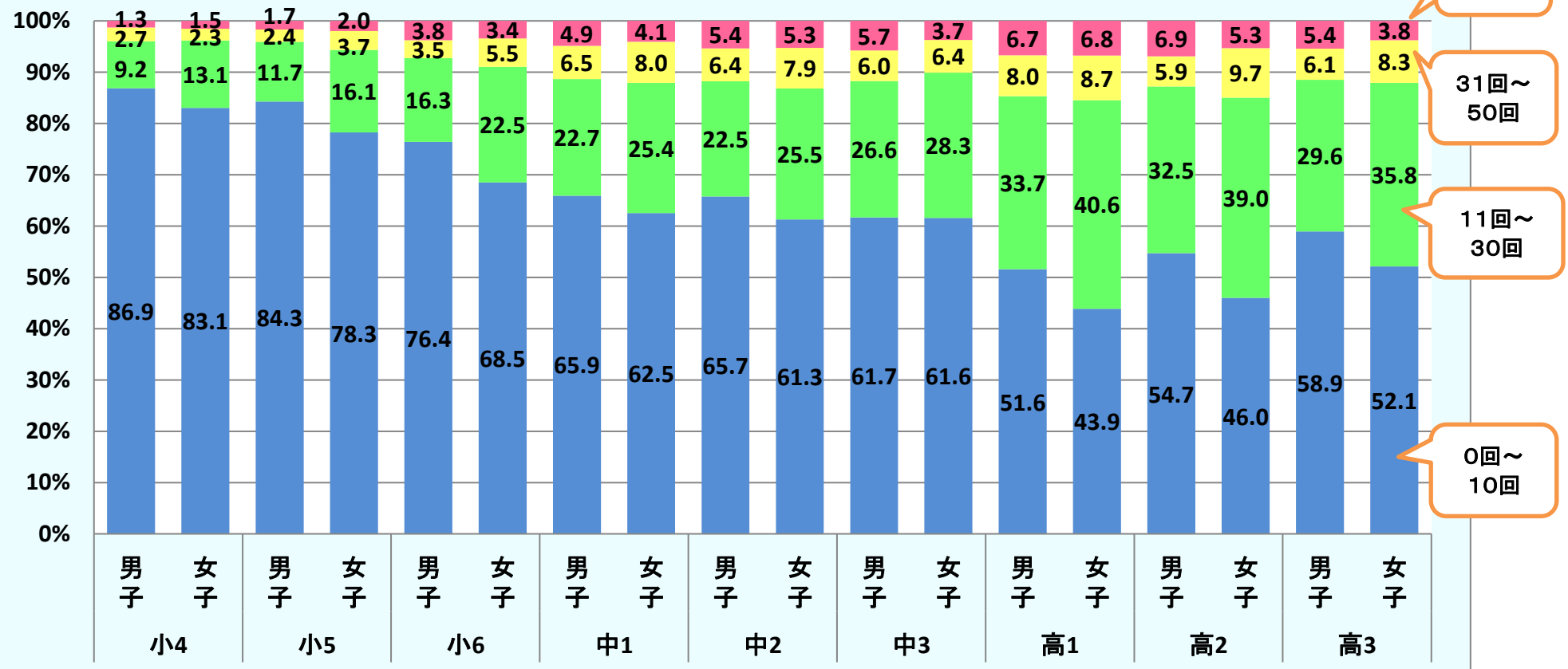
【傾向】

・高校生の5時間以上の使用時間が増加している。

【指導・啓発のポイント】

・長時間使用は、ネット依存・スマホ依存につながる。保護者懇談等を活用して、家庭内ルールやフィルタリング設定の有無、ペアレンタルコントロールについて周知、確認する。

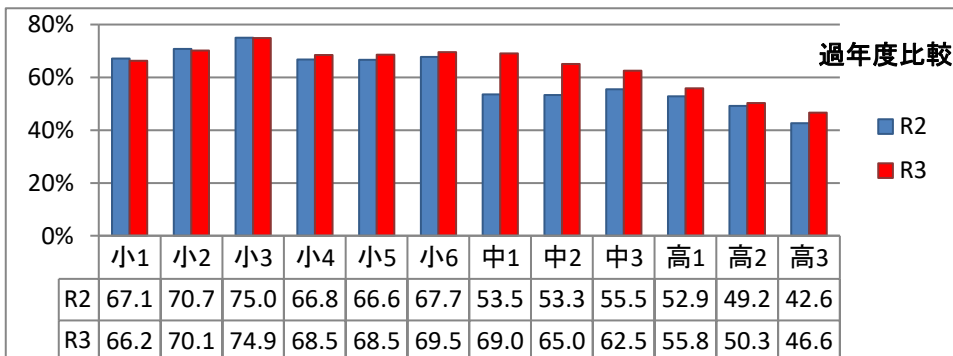
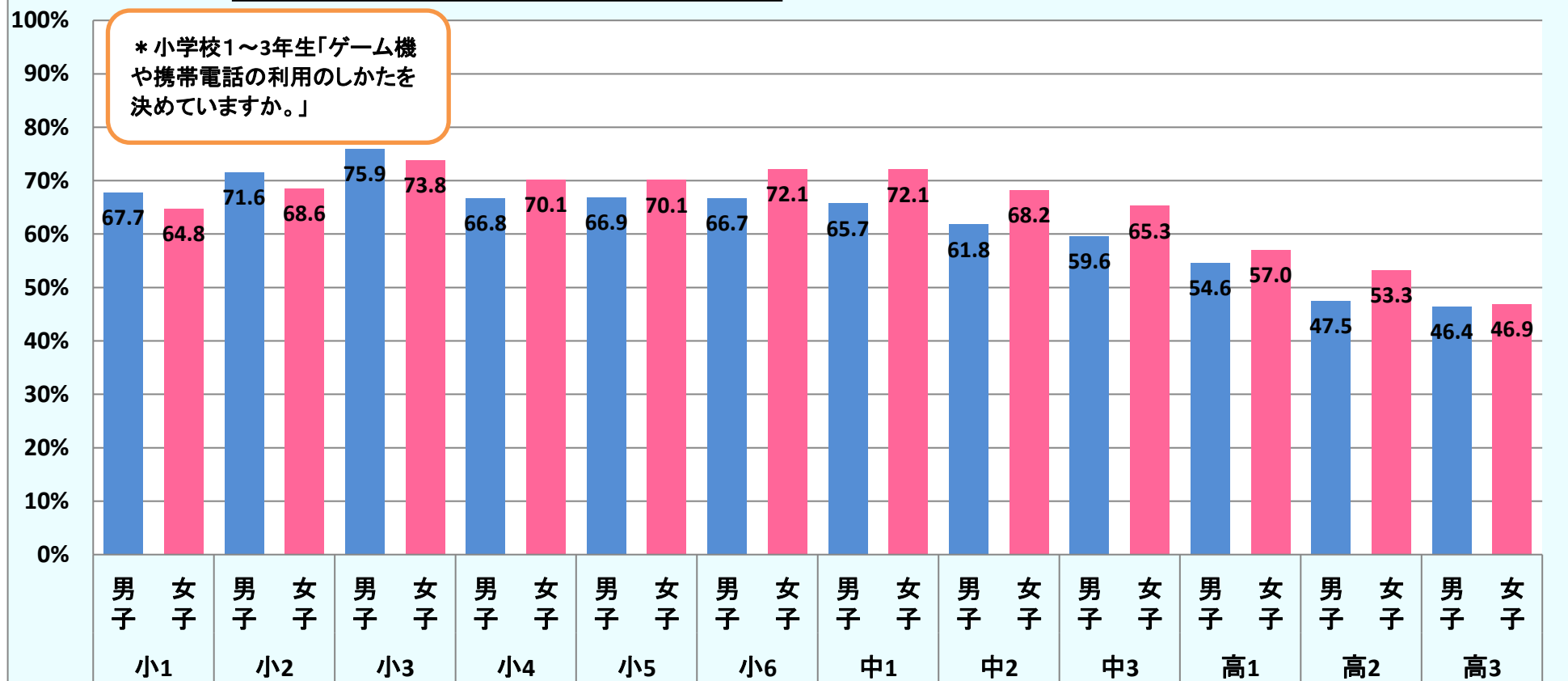
Q13.電子メールは、1日に何回ぐらい使いますか。
 (Q11で「ほぼ毎日使う」「たまに使うだけ」と答えた人)



【傾向】
 ・年齢が上がっていくにつれて、使用頻度が高くなっている。
 ・高校生女子の使用頻度が高い。

【指導・啓発のポイント】
 ・回数が多くなっている理由として「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない」等が考えられる。自分自身のSNS等への書き込みを振り返り、適切に利用するためのルールや使い方を考えさせる。

Q14.あなたの家では自分が使う携帯電話(兄弟姉妹・保護者のものも含む)の 利用のしかたを決めていますか。



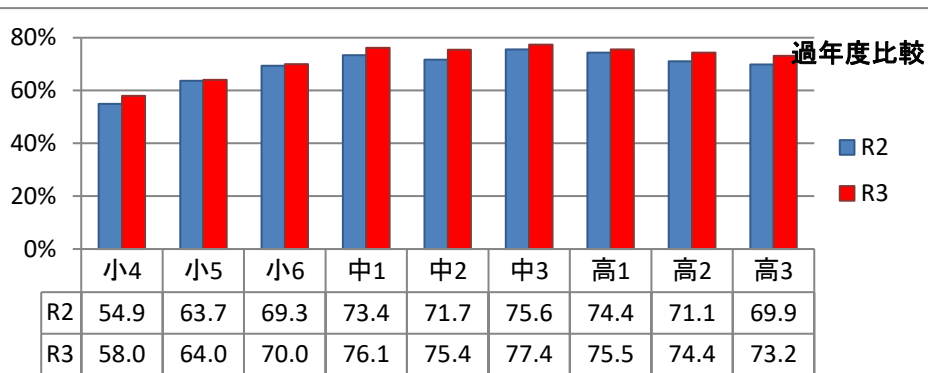
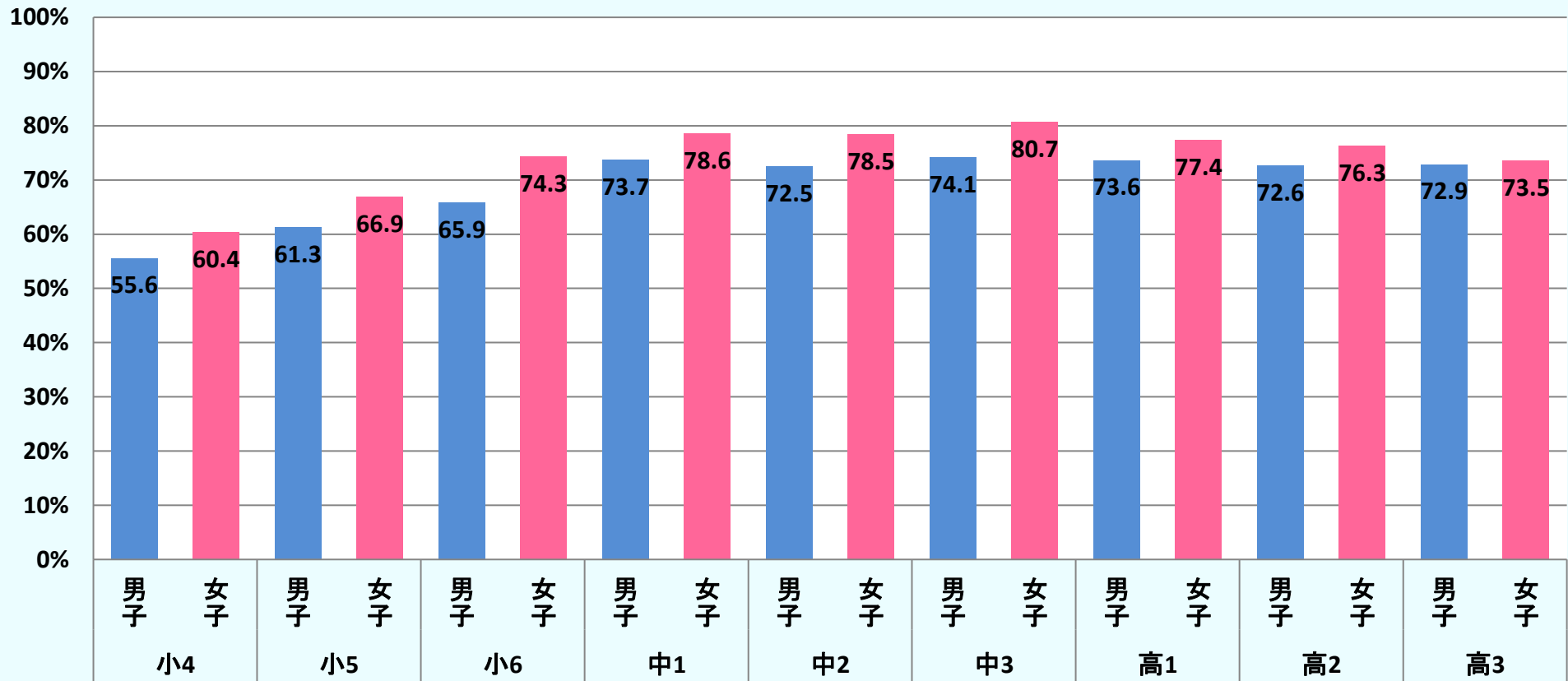
【傾向】

・前年と比較して、利用のしかたを決めている割合が増加している。

【指導・啓発のポイント】

- ・学齢の進行に応じて、ルールの見直し・更新をする。
- ・子どもがネットやゲームをどのように利用しているかを保護者が確認しておくことが重要であることを周知する。

Q15.あなたは、家庭で情報モラルや携帯電話のマナーについて話を聞いたことがありますか。



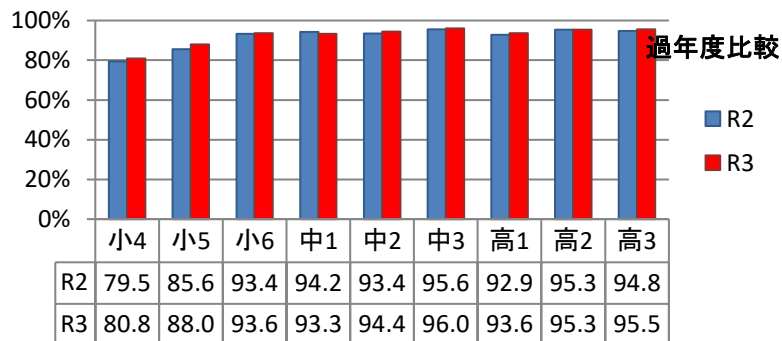
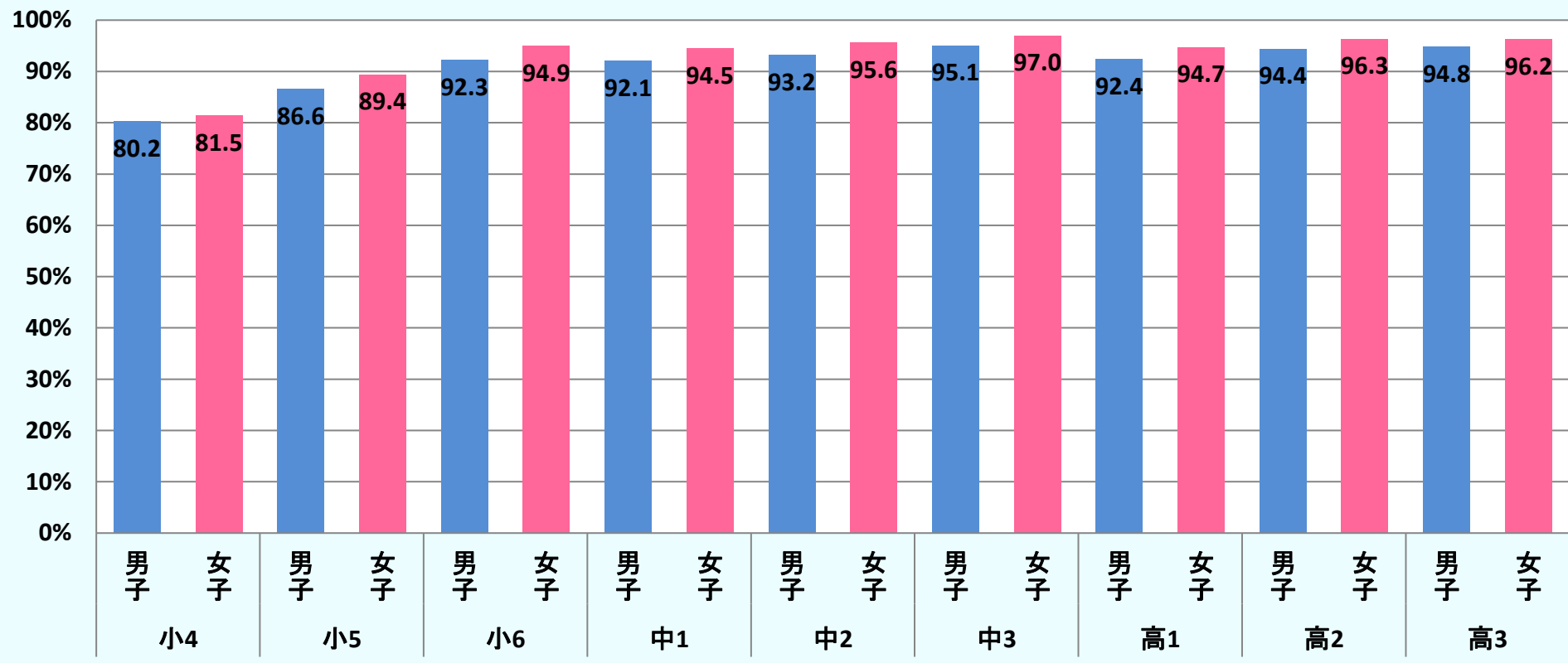
【傾向】

・どの学年においても、「話を聞いたことがある」の回答が増加している。

【指導・啓発のポイント】

- ・家庭において、短い時間でも、情報モラルやマナーに関する事例や出来事について話題にする。
- ・子どもがどのように使っているかを保護者が常に把握し、ルールを定期的に見直すことが重要である。

Q16.あなたは、学校の授業(朝の会、帰りの会を含む)で、情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがありますか。



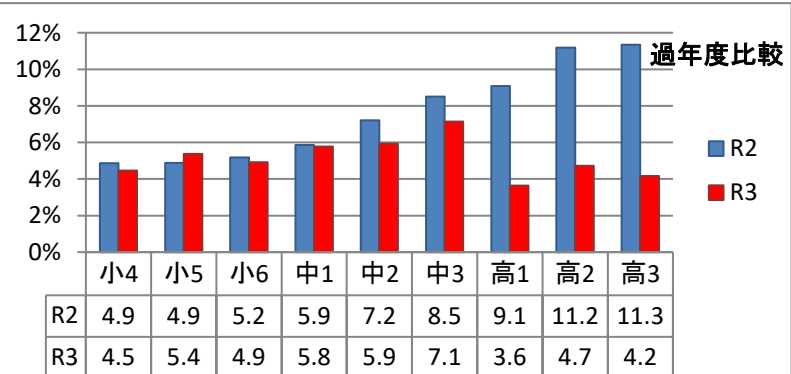
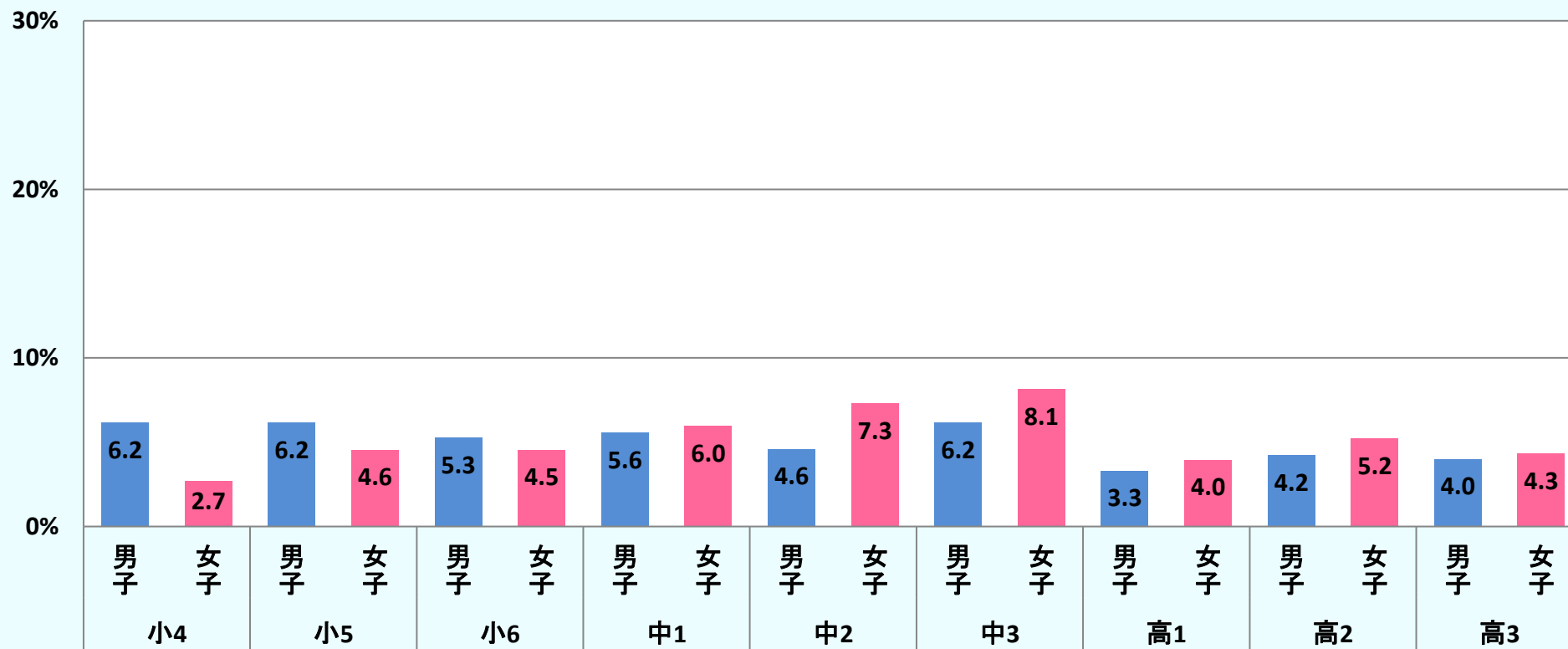
【傾向】

- ・例年、高い水準を維持している。
- ・小学校6年生以上では、約90%以上となっている。

【指導・啓発のポイント】

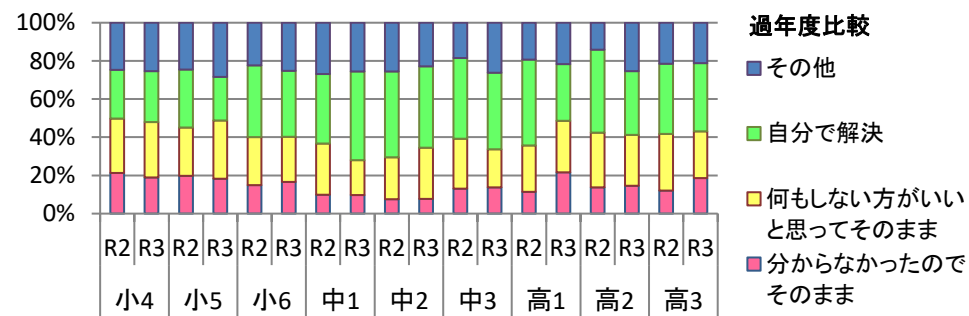
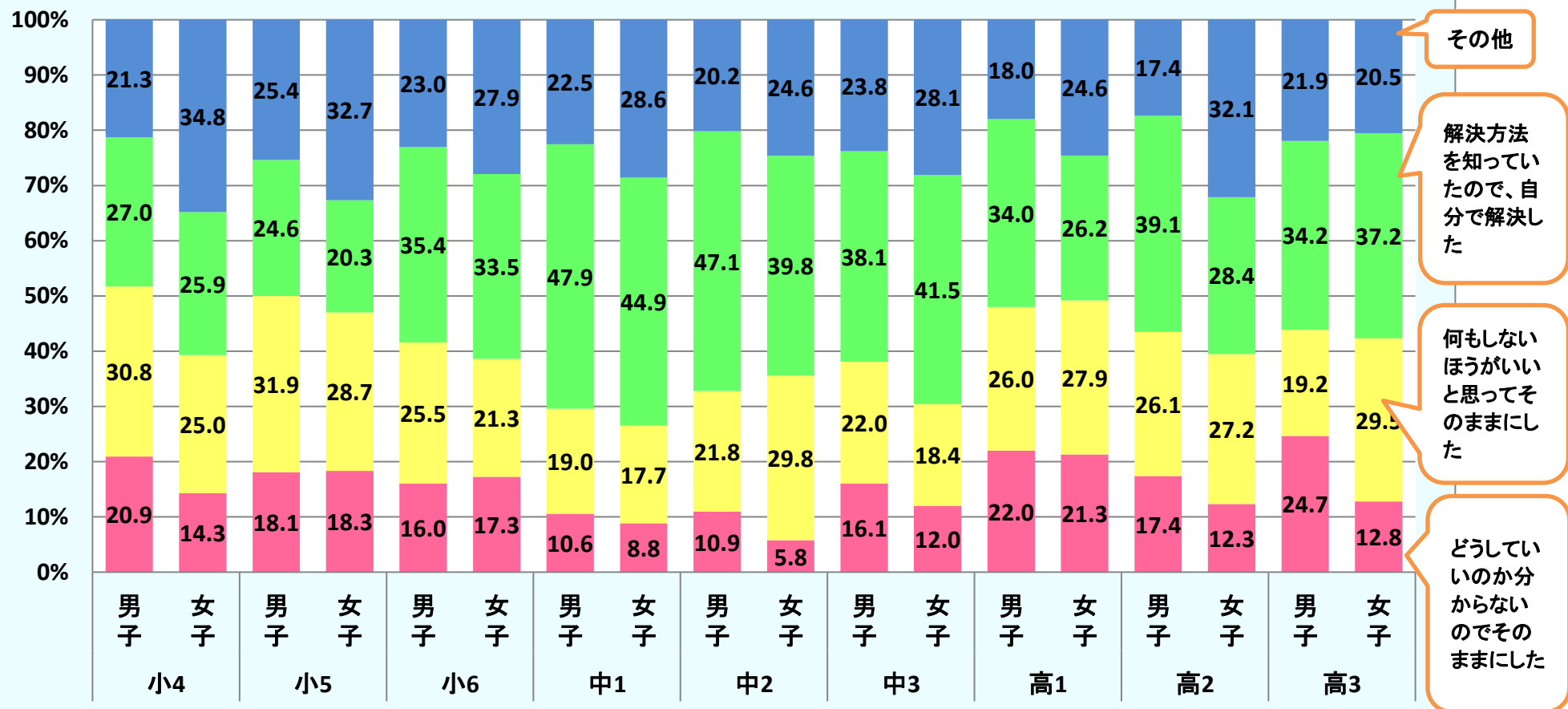
- ・小学4、5年生においても、将来の使用者になることを想定した情報モラルやマナーの指導が必要。
- ・新聞やニュースで情報モラルに関わる内容が話題になったときに、朝の会・SHRや保護者会などで取り上げ、意見交流するなど、日常的に指導する。

**Q17.あなたは、インターネットや携帯電話のメールやチャット、SNSなどで被害を受けたり、
いやな思いをしたりしたことがありますか。**



【傾向】
 ・前年度と比較して、高校生が大きく減少。
【指導・啓発のポイント】
 ・ネットへの書き込みに関する報道や様々な機関からの啓発が、高校生の書き込み被害の減少に一定の効果があったと推測される。
 ・ネット上の書き込みは、悪意がなくても、相手に自分の思いが伝わらない場合もあり、書き込む前に内容を確認するよう指導する。

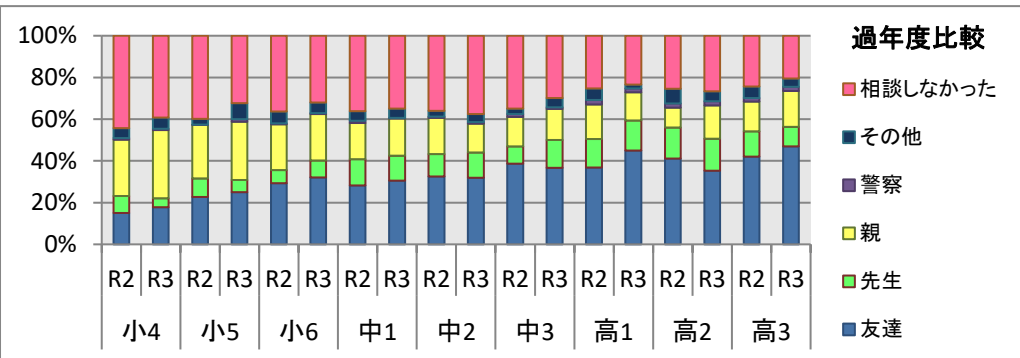
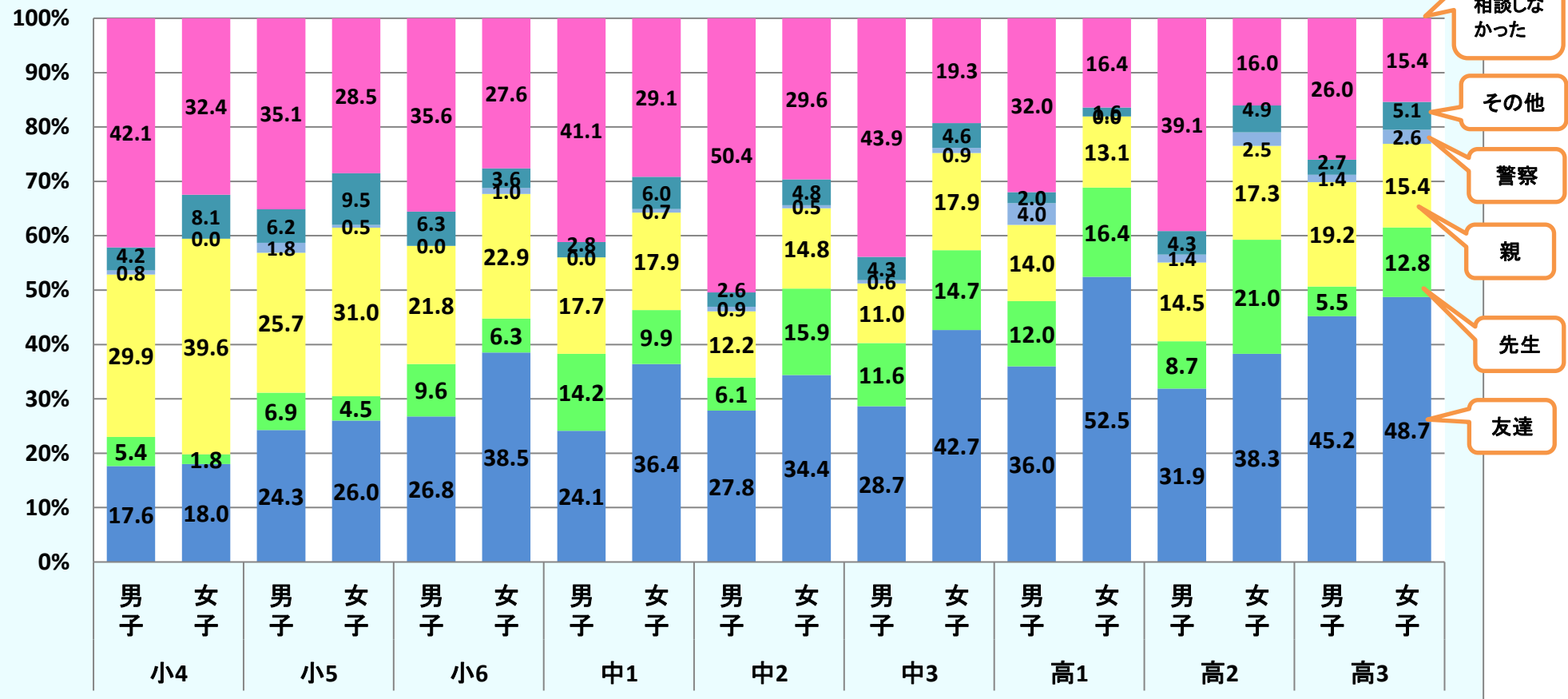
Q18.被害を受けたとき、どうしましたか。(Q17で「ある」と答えた人のみ)



【傾向】
 ・高校生において、「何もしない」「わからないのでそのまま」の回答が増加。特に、男子の割合が高い。

【指導・啓発のポイント】
 ・SNSを利用する頻度が多くなり、動画中継など様々な使い方もできるようになった分、様々な形で被害も受けやすいため、トラブル対応として、保護者、教員に気軽に相談できる体制を整え、外部の相談窓口などの情報を児童生徒に周知する。

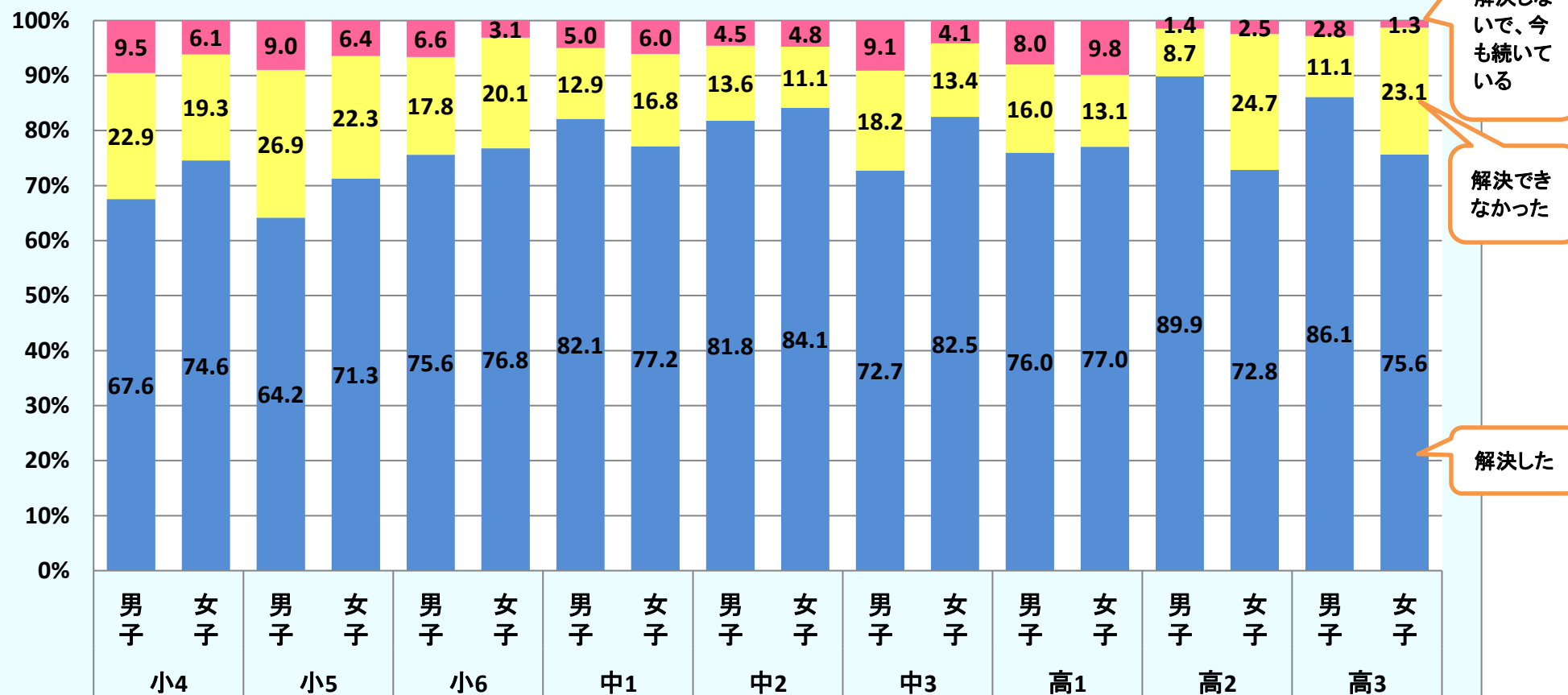
Q19.被害を受けたとき、誰かに相談しましたか。(Q17で「ある」と答えた人)



【傾向】
 ・男子児童生徒は、被害を受けても誰にも相談しない割合が女子と比較して高い。

【指導・啓発のポイント】
 ・「誰にも相談しない」「友だちに相談する」だけでは解決できず、より被害が拡大する可能性が高くなる。被害にあった際には、親や先生など身近な大人、または各支援機関に相談するよう児童生徒、保護者に啓発する。

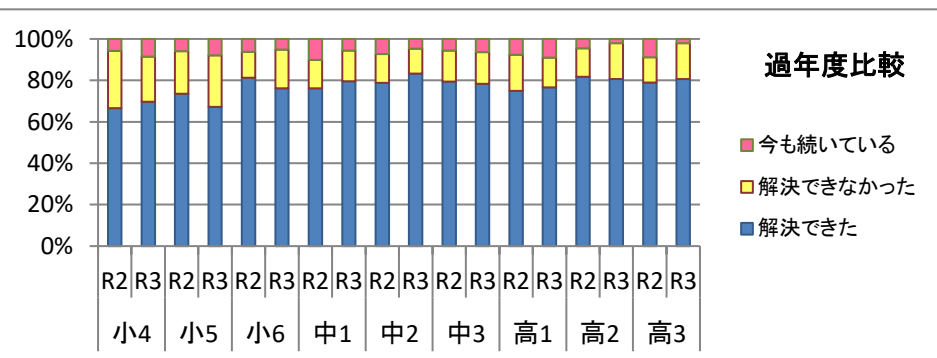
Q20.被害は解決できましたか。(Q17で「ある」と答えた人)



解決しないで、今も続いている

解決できなかった

解決した



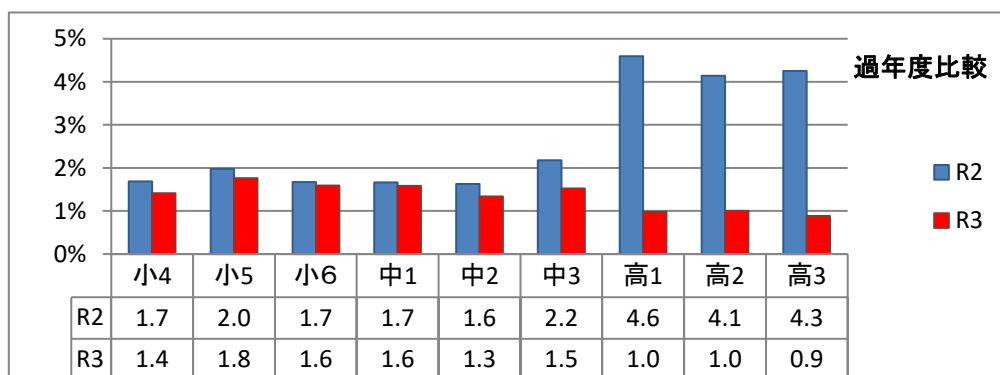
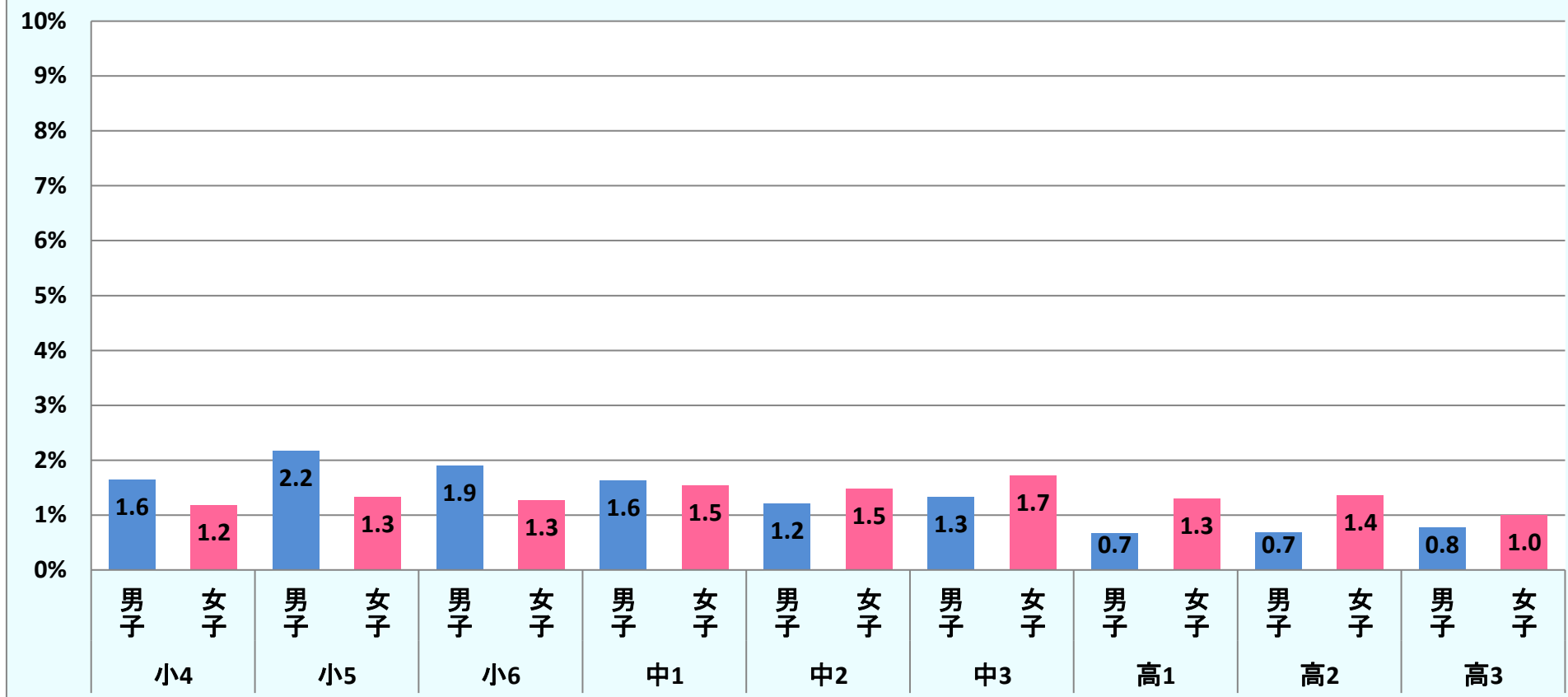
【傾向】

- 小学生において、「解決できなかった」「今も続いている」の割合が高い。
- 高校生女子において、「解決できなかった」の割合が増加している。

【指導・啓発のポイント】

- 保護者や先生に気軽に相談できる体制や、外部相談窓口の紹介を定期的に周知する。

Q21.メールやSNSの書き込みで、いじめを受けたことがありますか。



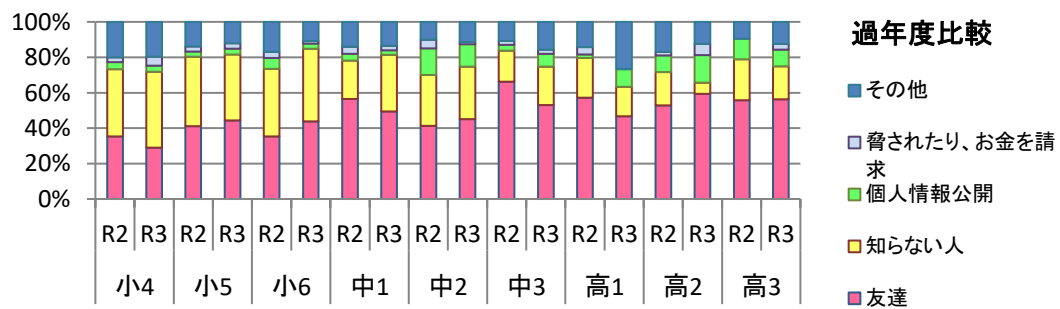
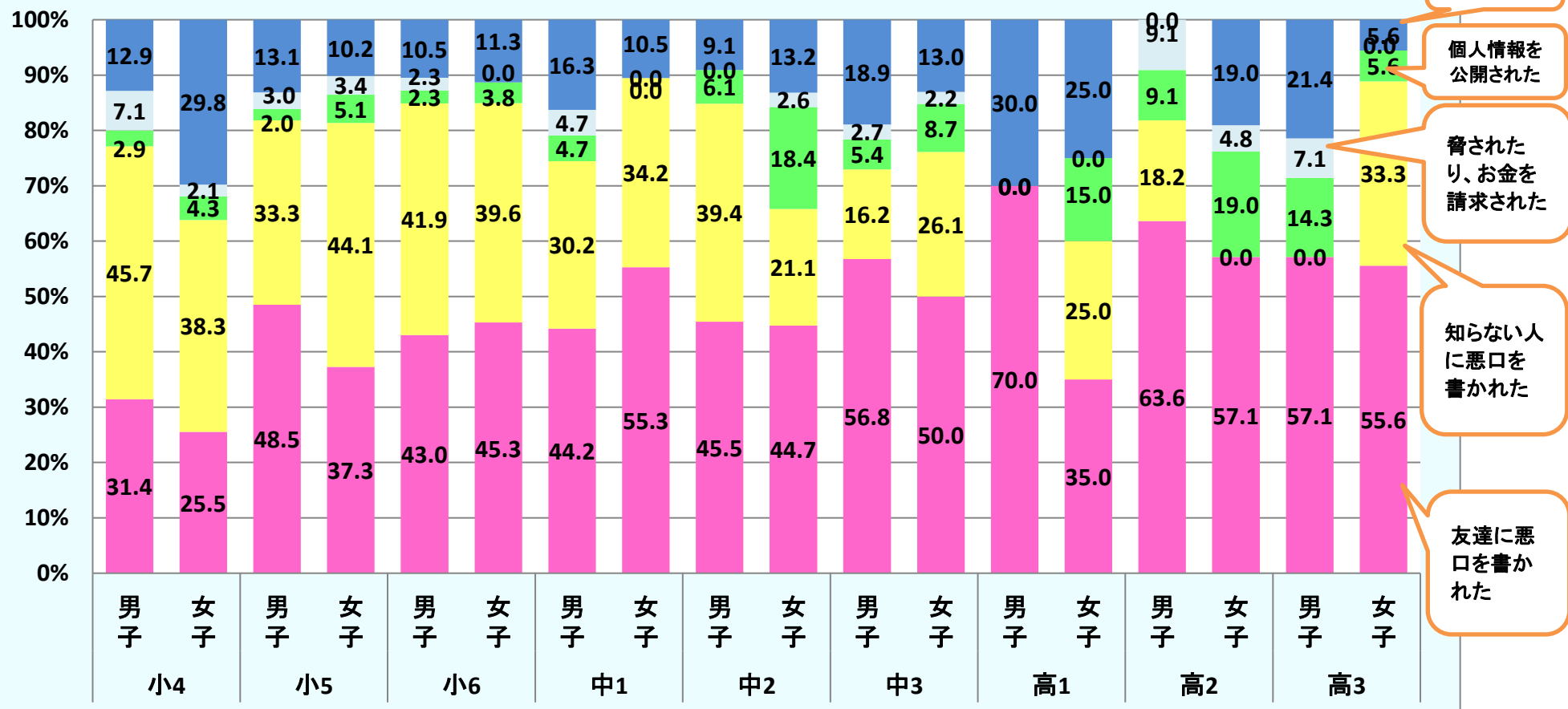
【傾向】

・前年度と比較して、全体的に減少している。特に、高校生の割合が減少している。

【指導・啓発のポイント】

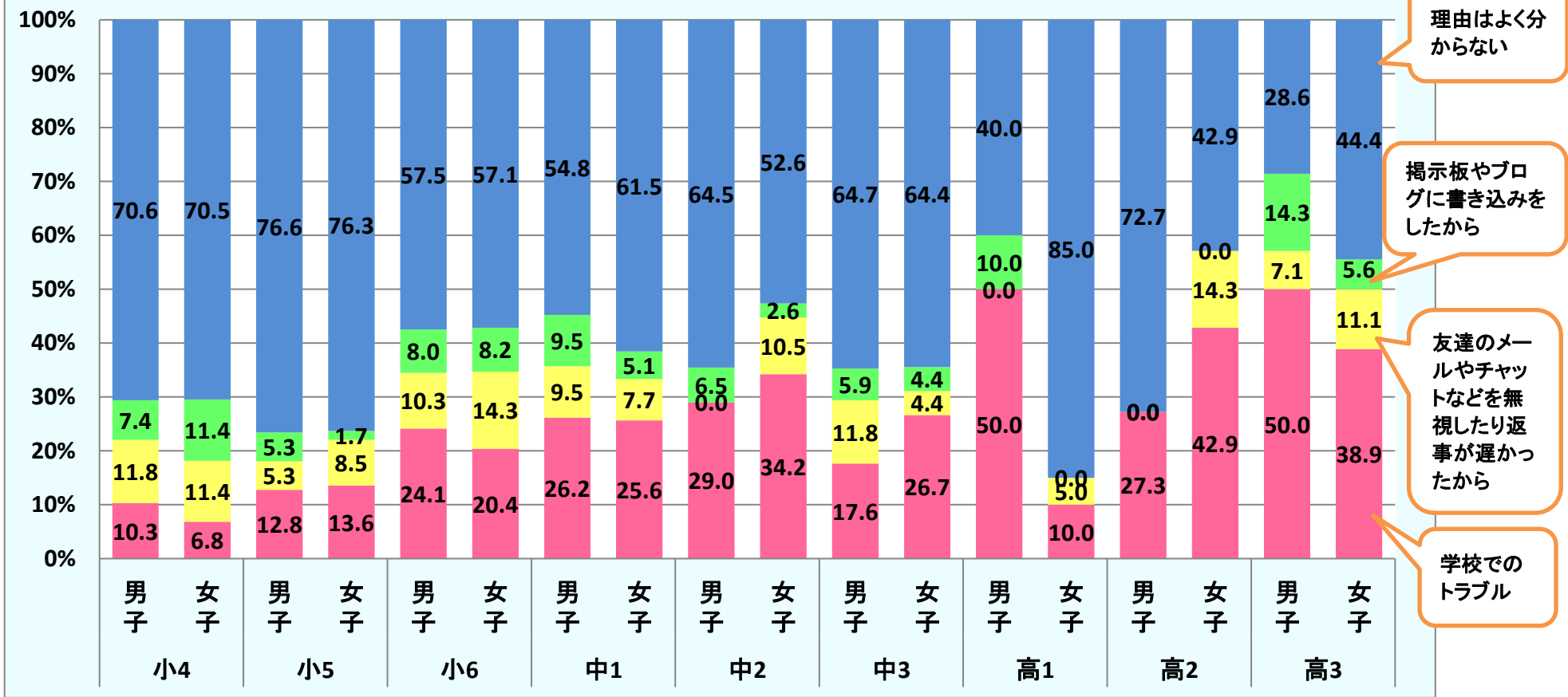
・どのような投稿がいじめに該当するのかを理解させるため、ネットいじめの事例を具体的に紹介する。

Q22.いじめを受けたと感じた理由は何ですか。(Q21で「ある」と答えた人)



【傾向】
 ・小学生において、知らない人に悪口を書かれた割合が高い。
【指導・啓発のポイント】
 ・小学生におけるスマートフォン所持率の増加、フィルタリングの設定率の低さから、知らない人とつながる危険性が高くなる。知らない人に悪口を書かれた回答が多いことから、家庭でのルール作り、フィルタリングの設定等を保護者に啓発する必要がある。

Q23.何が原因でネットいじめを受けたと思いますか。(Q21で「ある」と答えた人)

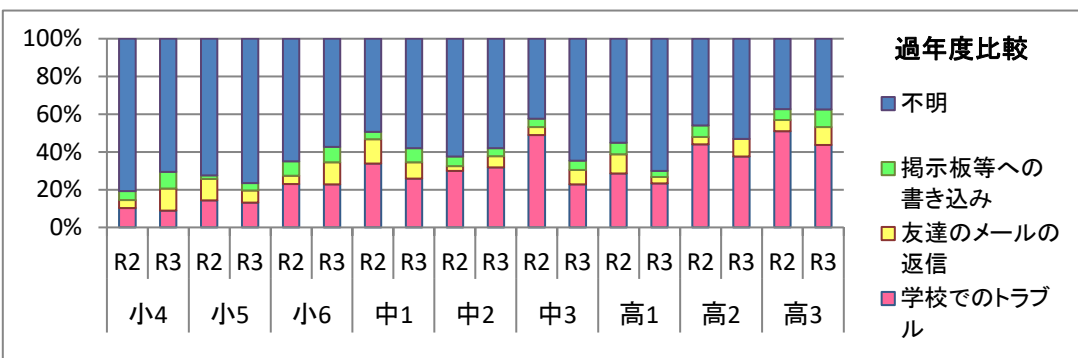


理由はよく分からない

掲示板やブログに書き込みをしたから

友達のメールやチャットなどを無視したり返事が遅かったから

学校でのトラブル



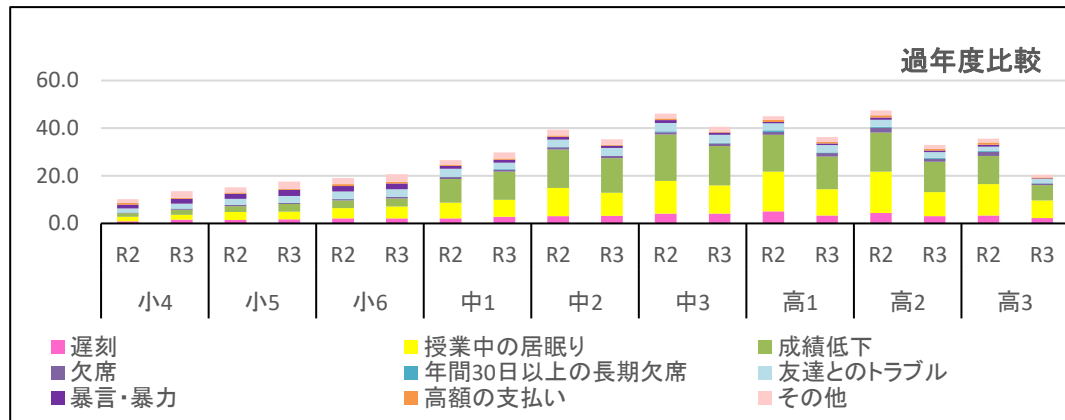
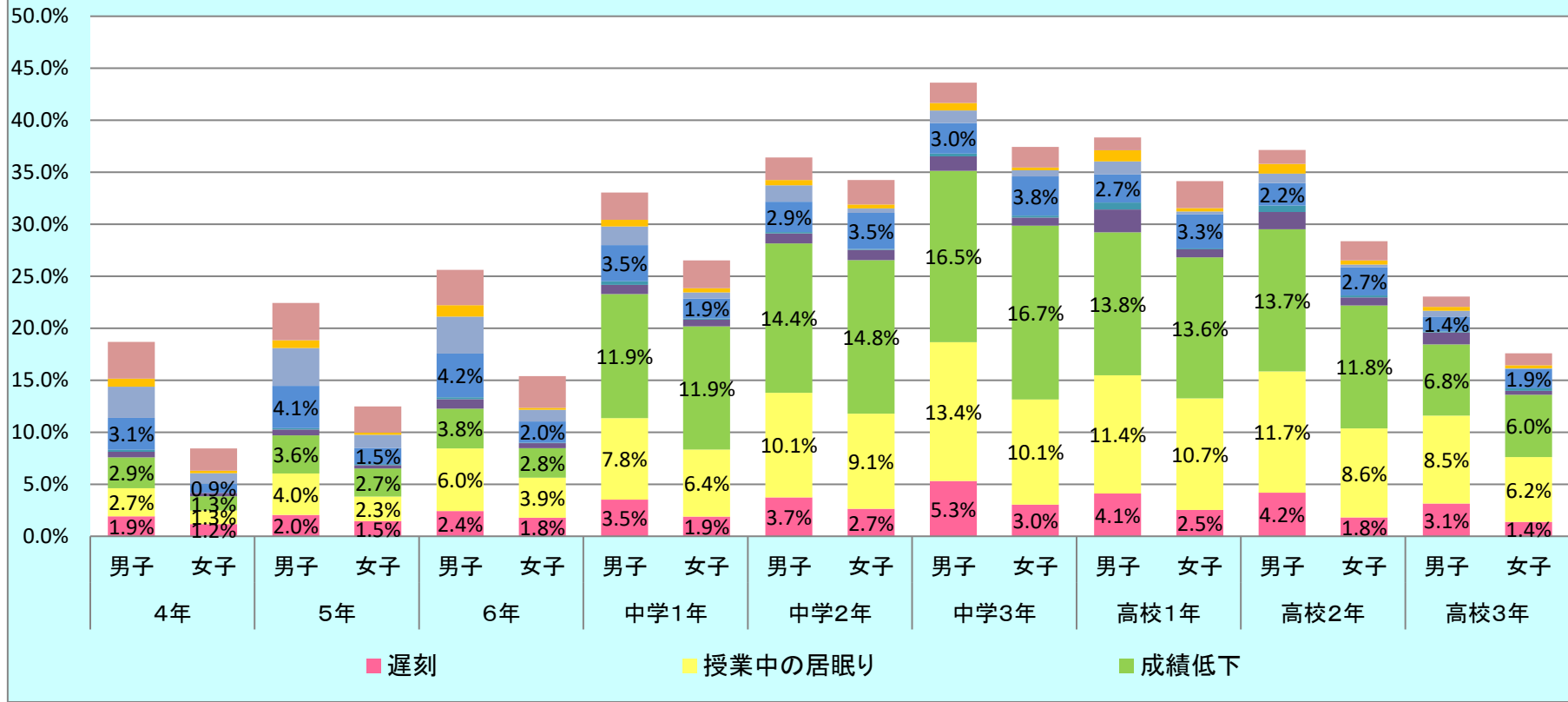
【傾向】

- ・全体的に、「理由はよくわからない」の割合が高い。
- ・「学校でのトラブル」に起因するネットいじめの割合が、学年が進むにつれて高くなり、特に高校生で顕著になる。

【指導・啓発のポイント】

- ・学校のトラブルの延長で、ネットでのいじめに発展するケースが多いことから、普段の学校生活でのトラブルについて注視し、きめ細かな指導・助言が必要。

Q24.今までにインターネットの使いすぎにより何か問題を起こしたことがありましたか。

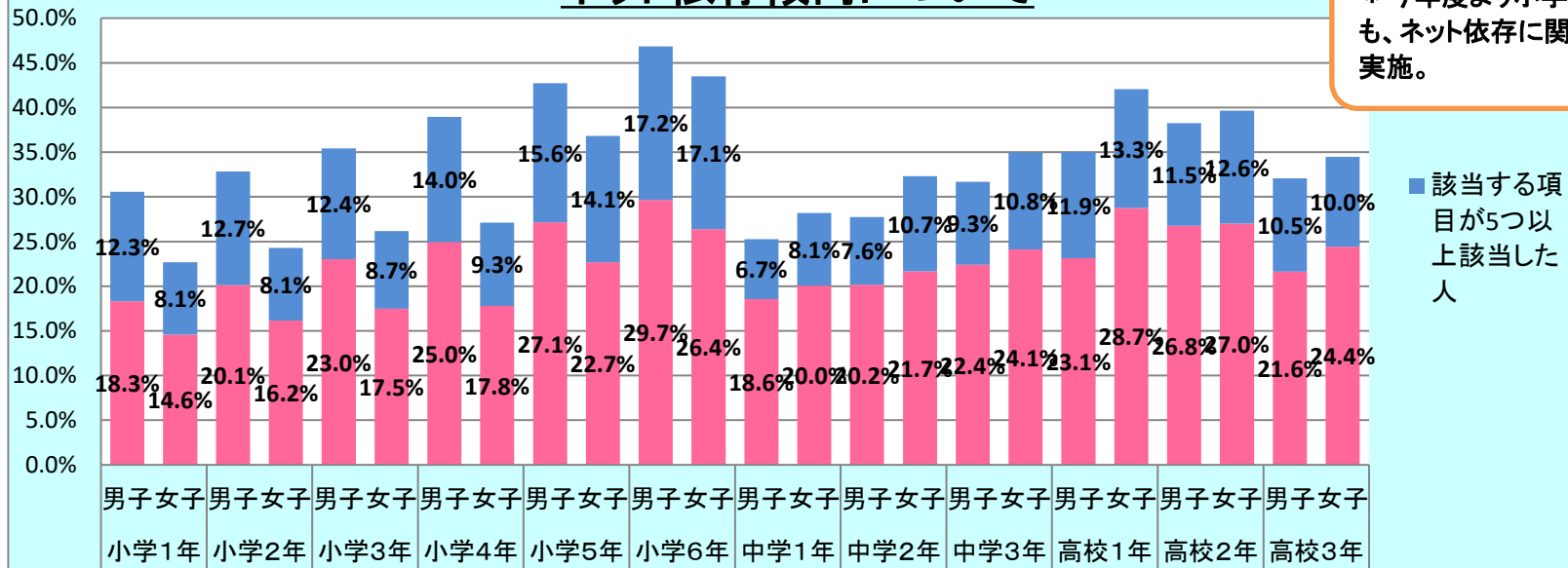


【傾向】

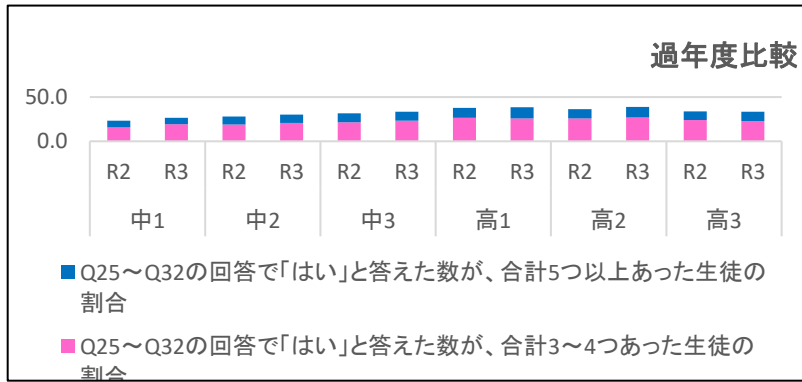
- ・前年と比較して、インターネットの使い過ぎによる問題は減少。
- 【指導・啓発のポイント】
- ・インターネットの長時間利用が日常生活に及ぼす悪影響は大きいことを認識させ、一日のうちに自由に使える時間を意識して利用することを児童生徒、保護者に周知啓発する。
- ・使用時間は増加の傾向にあることから、家庭でのルール作り、フィルタリングの設定、ペアレンタルコントロール等の有効な手段について、児童生徒、保護者に対して、継続的に啓発する。

ネット依存傾向について

*今年度より小学生に対して
も、ネット依存に関する質問を
実施。



■ 該当する項目が5つ以上該当した人



【傾向】

- ・ネット依存傾向がみられる生徒が、前年と比較してほぼすべての学年で増加している。
- ・小学校で高い数値となっている。特に男子、小学校5、6年生に高い数値が見られる。

【指導・啓発のポイント】

- ・5つ以上該当した人は、ネット依存の傾向が高い。3~4つ該当した人もかなり注意する必要がある。
- ・小学校の男子において、オンラインゲームの利用の割合が高いことが、要因の一つであると考えられることから、ゲーム機やスマートフォン等によるネットやゲームの利用状況について振り返りをさせ、家庭で保護者と話し合い「家庭内ルール」を作ることが必要。
- ・スマホやタブレットの時間管理ツールを使い、家庭で使い方を話し合うことも有効。
- ・依存が心配な児童生徒は、保護者に対して、学校に相談することを促す。必要に応じてスクールカウンセラーや専門医療機関につなげることも必要。

項 目

インターネットに夢中になっていると感じている。
満足を与えるために、インターネットを使う時間をだんだん長くしていかなければならないと感じている。
インターネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがたびたびある。
インターネットの使用時間を短くしたり、完全にやめようとした時、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じる。
使いはじめに意図したよりも長い時間インターネットを接続した状態にいる。
インターネットのために大切な人間関係、学校のことや、部活動のことを台無しにしたり、あやうくするようなことがあった。
インターネットへの熱中のしすぎをかくすために、家族、学校の先生やその他の人たちにうそをついたことがあった。
問題から逃げるために、または、絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどといったいやな気持ちから逃げるために、インターネットを使う。